

参考資料

高鍋町防災に関するアンケート  
(障がい福祉関係)  
報告書

平成 29 年 12 月

高鍋町役場

## I 調査概要

### 1. 調査の目的

高鍋町では、町民の皆様の生命及び財産を災害から守り、その被害の軽減を目指しています。そのため、障がいをお持ちの方に関する高鍋町の防災・減災対策のあるべき姿についてご意見を伺うためにアンケートを実施しました。

### 2. 調査対象

高鍋町に居住する「身体障害者手帳」、「療育手帳」、「精神障害者保健福祉手帳」「自立支援医療（精神通院）受給者証」の各保持者

### 3. 調査時期

平成 29 年 9 月に実施

### 4. 調査方法

郵送による発送・回収

### 5. 調査回収率

	全体
抽出方法	各手帳所持者から無作為に抽出
調査件数	500
回収件数	205
回収率	41.0%

### 6. 集計上の留意点

- (1) グラフ中の「N=」は、母数となるサンプル数(回答者数)を示しています。
- (2) 集計結果は百分率で算出し、四捨五入の関係上、百分率の合計が 100%にならない場合があります。
- (3) 各項目のクロス集計に当たっては、重複の手帳所持者がいるため、各手帳を「持っている」と答えた方は母数に含んでいます。また、障害者手帳及び認定や診断の設問に回答されていないために身体・知的・精神に分けられない方は「全体」に含まれています。

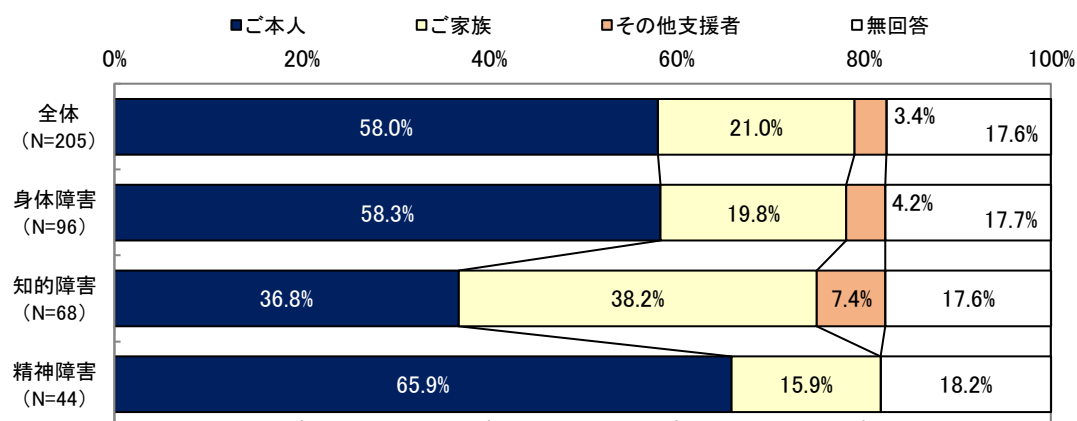
## II 調査結果

### 1 あなたのことについて

問1 アンケートに回答していただくのはどなたですか。(1つに○)

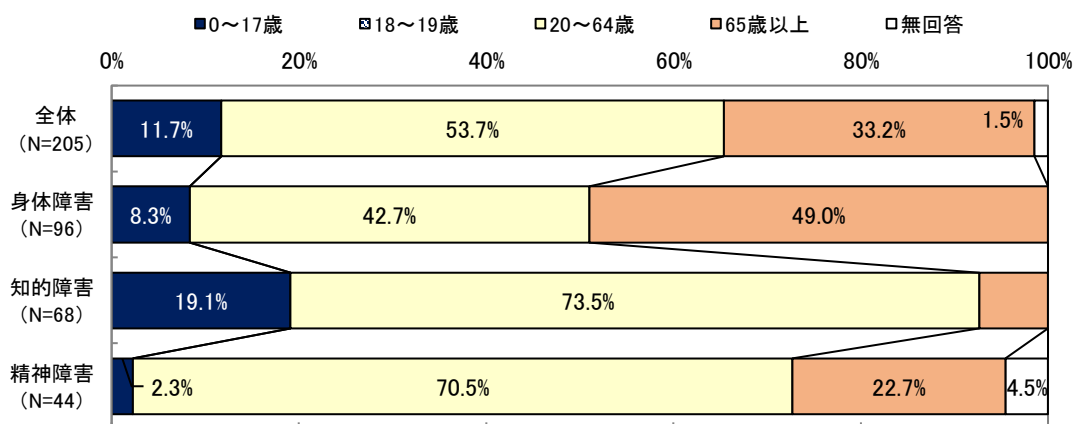
- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 本人(ご家族などの支援により、ご本人の意見を記入する場合を含む) |
| 2. ご家族がご本人に代わって回答                   |
| 3. その他支援者がご本人に代わって回答                |

回答者について、身体障害(58.3%)・精神障害(65.9%)は、「本人(ご家族などの支援により、ご本人の意見を記入する場合を含む)」の割合が最も高く、知的障害(38.2%)は「ご家族がご本人に代わって回答」の割合が最も高くなっています。全体でみると約6割がご本人の回答となっています。



問2 あなたの年齢は何歳ですか。(平成29年4月1日現在)

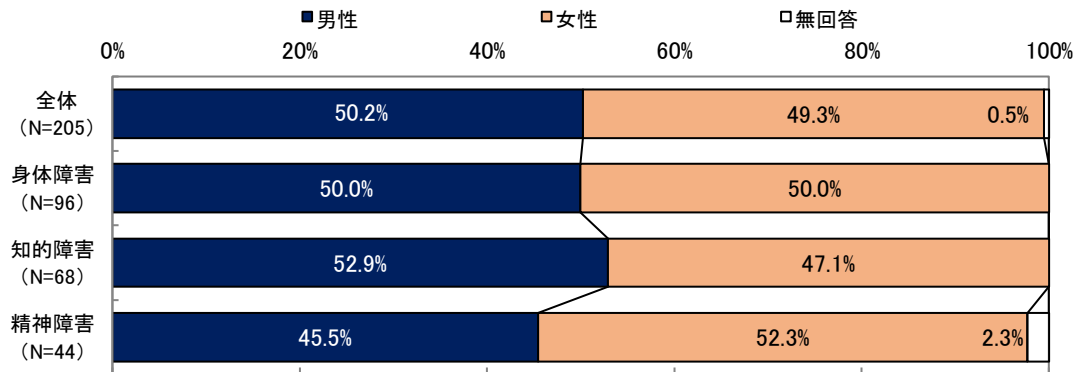
年齢について、身体障害(49.0%)は、「65歳以上」の割合が最も高く、知的障害(73.5%)・精神障害(70.5%)は「20～64歳」の割合が最も高くなっています。全体でみると回答者の約1割が「0～17歳」、約5割が「20～64歳」、約3割が「65歳以上」となっています。「18～19歳」は該当者はありません。



問3 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

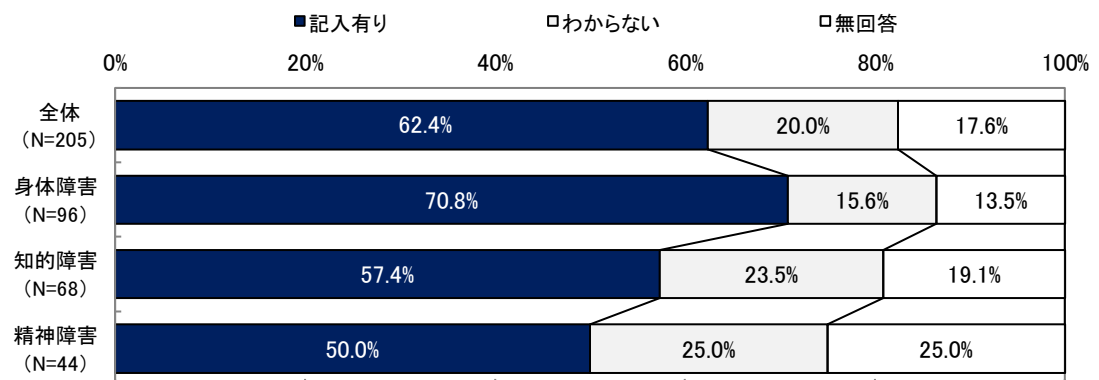
性別については、いずれも男性、女性とも同程度の割合になっています。



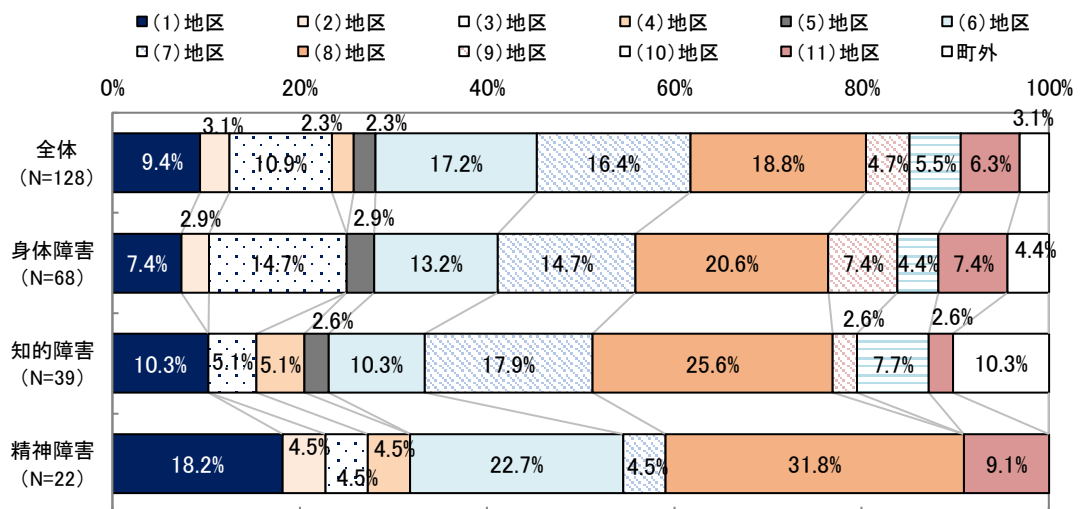
問4 あなたがお住まいの行政区はどこですか(行政区名を記入してください)

1. ( )	2. わからない
--------	----------

行政区記入者は身体障害(70.8%)、知的障害(57.4%)、精神障害(50.0%)となっています。



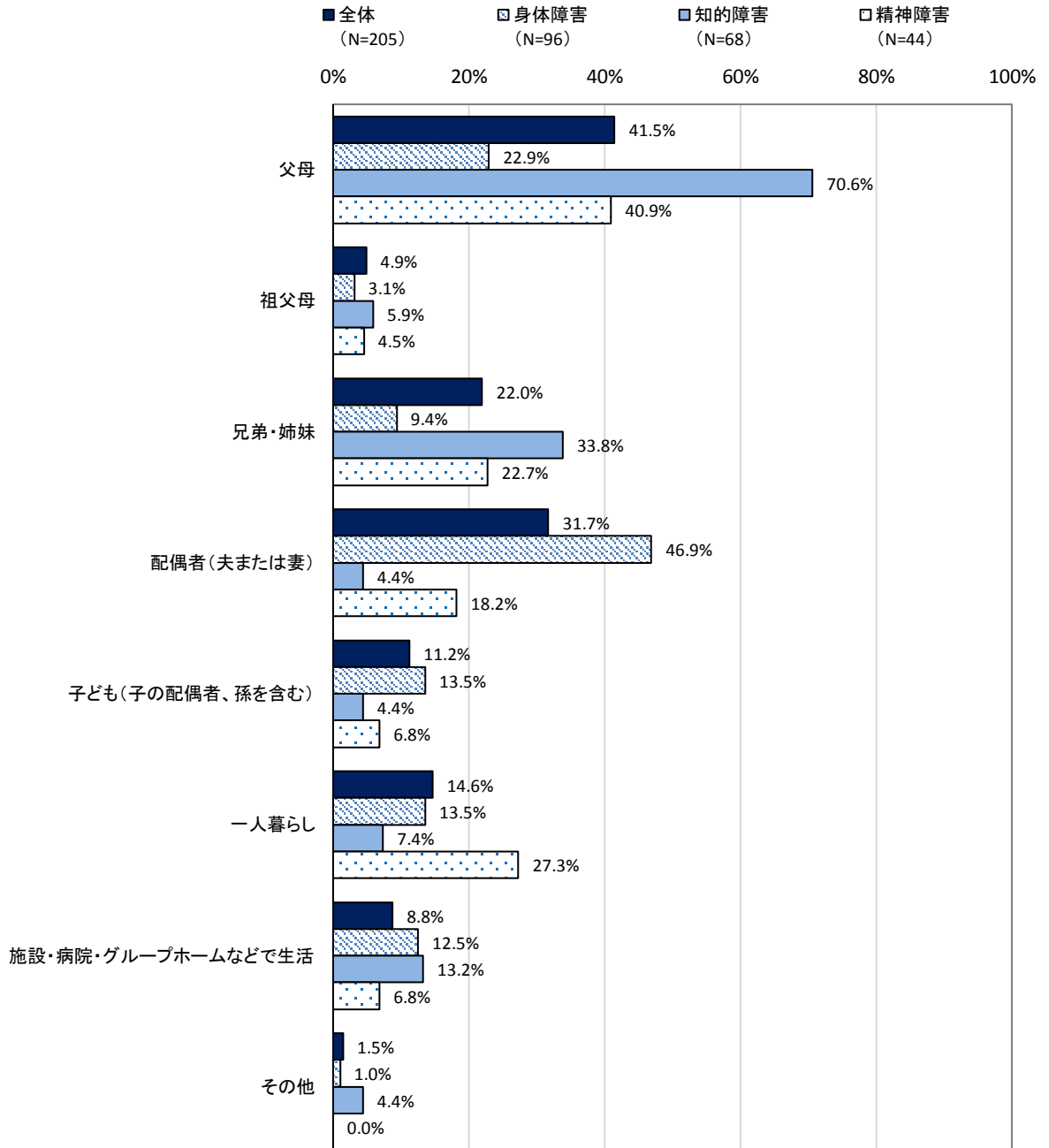
<行政区の記入の地区別>



問5 現在、あなたと一緒に生活している人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                       |           |          |               |
|-----------------------|-----------|----------|---------------|
| 1. 父母                 | 2. 祖父母    | 3. 兄弟・姉妹 | 4. 配偶者(夫または妻) |
| 5. 子ども(子の配偶者、孫を含む)    | 6. 一人暮らし  |          |               |
| 7. 施設・病院・グループホームなどで生活 | 8. その他( ) |          |               |

一緒に生活している人について、身体障害(46.9%)は「配偶者(夫または妻)」の割合が最も高く、知的障害(70.6%)・精神障害(40.9%)は「父母」の割合が最も高くなっています。



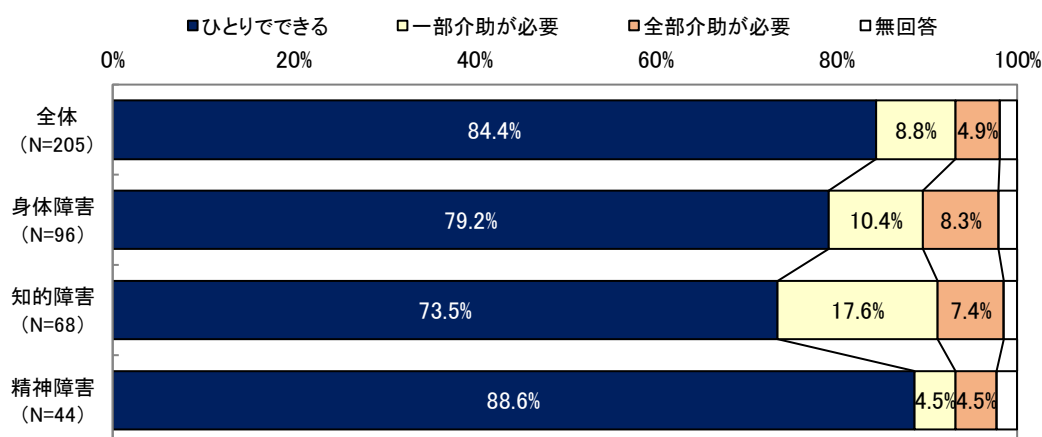
問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。

(①から⑩それぞれ1つに○)

項目	ひとりでできる	一部介助が必要	全部介助が必要
① 食事	1	2	3
② トイレ	1	2	3
③ 入浴	1	2	3
④ 衣服の着脱	1	2	3
⑤ 身だしなみ	1	2	3
⑥ 家の中の移動	1	2	3
⑦ 外出	1	2	3
⑧ 家族以外の人との意思疎通	1	2	3
⑨ お金の管理	1	2	3
⑩ 薬の管理	1	2	3

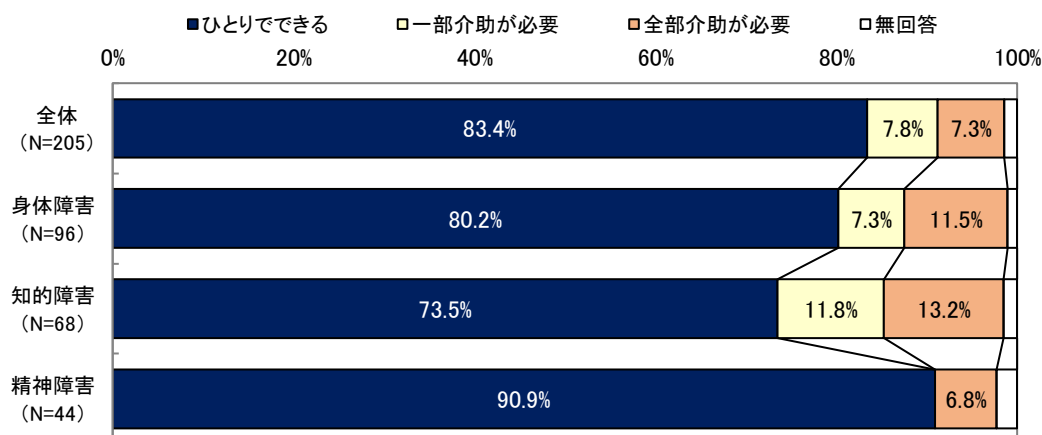
### ① 食事について

食事について、身体障害(79.2%)・知的障害(73.5%)・精神障害(88.6%)のすべてにおいて、「ひとりでできる」の割合が最も高くなっています。



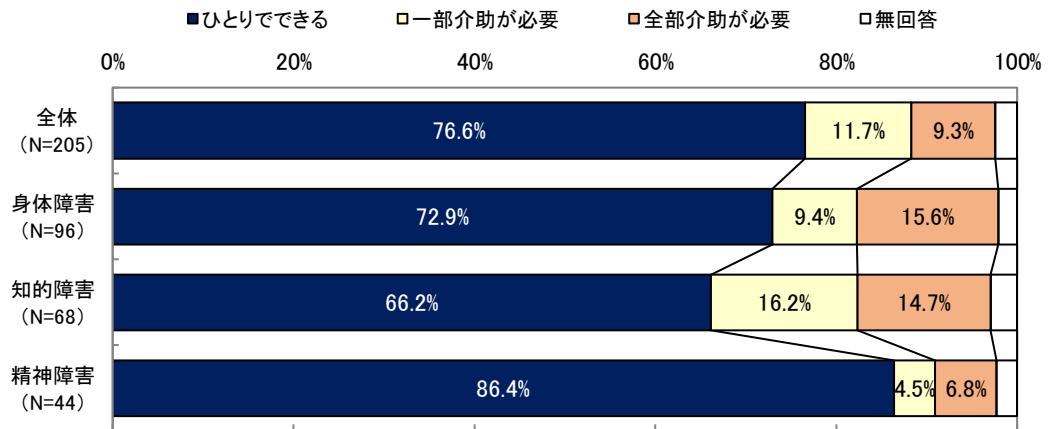
### ② トイレについて

トイレについて、身体障害(80.2%)・知的障害(73.5%)・精神障害(90.9%)すべてにおいて「ひとりでできる」の割合が最も高くなっています。



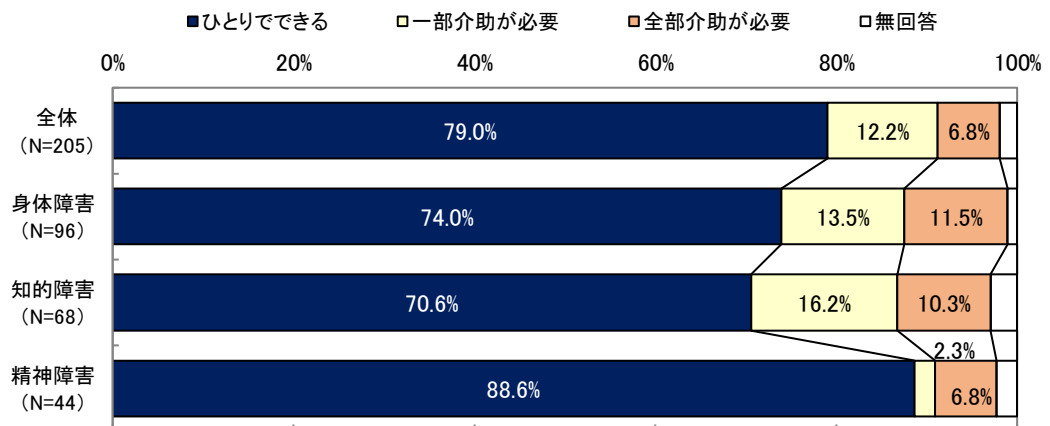
### ③ 入浴について

入浴について、身体障害(72.9%)・知的障害(66.2%)・精神障害(86.4%)すべてにおいて「ひとりでできる」の割合が最も高くなっています。



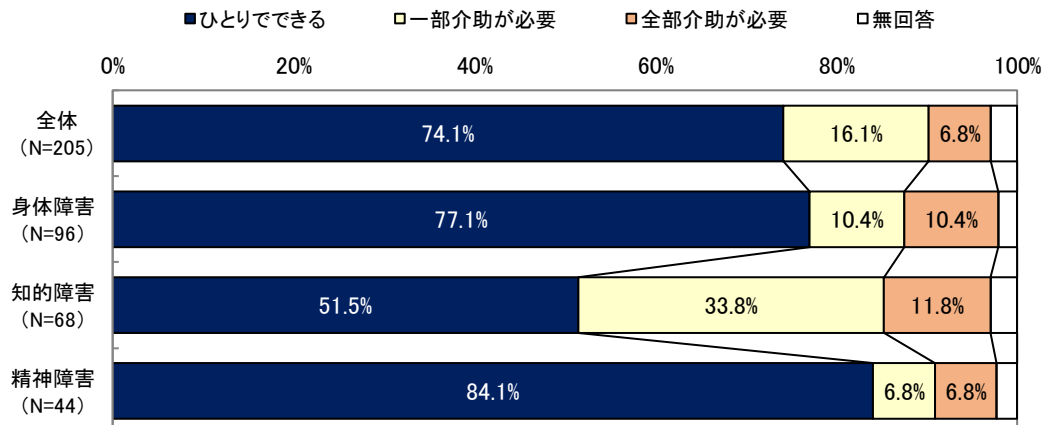
### ④ 衣服の着脱について

衣服の着脱について、身体障害(74.0%)・知的障害(70.6%)・精神障害(88.6%)すべてにおいて「ひとりでできる」の割合が最も高くなっています。



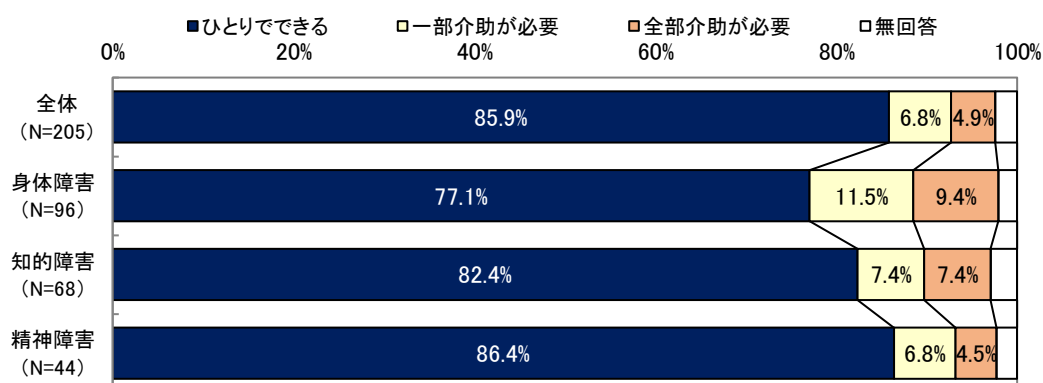
### ⑤ 身だしなみについて

身だしなみについて、身体障害(77.1%)・知的障害(51.5%)・精神障害(84.1%)すべてにおいて「ひとりでできる」の割合が最も高くなっていますが、知的障害(33.8%)は「一部介助が必要」の割合もやや高くなっています。



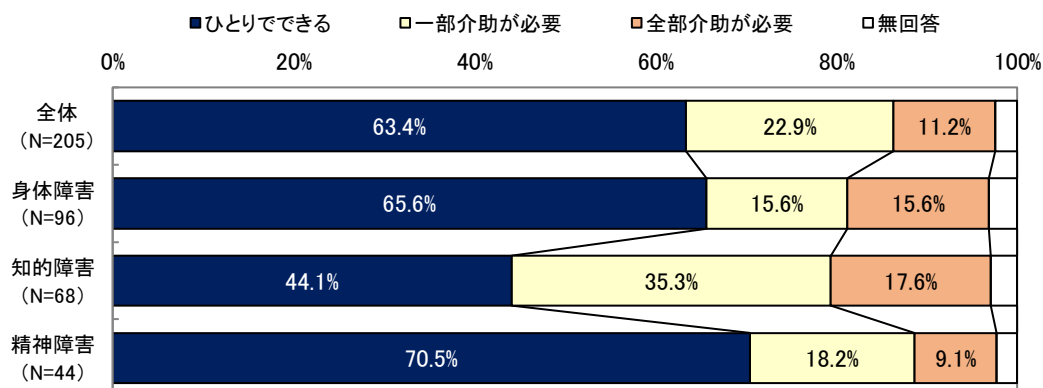
### ⑥ 家の中の移動について

家の中の移動について、身体障害(77.1%)・知的障害(82.4%)・精神障害(86.4%)すべてにおいて「ひとりでできる」の割合が最も高くなっています。



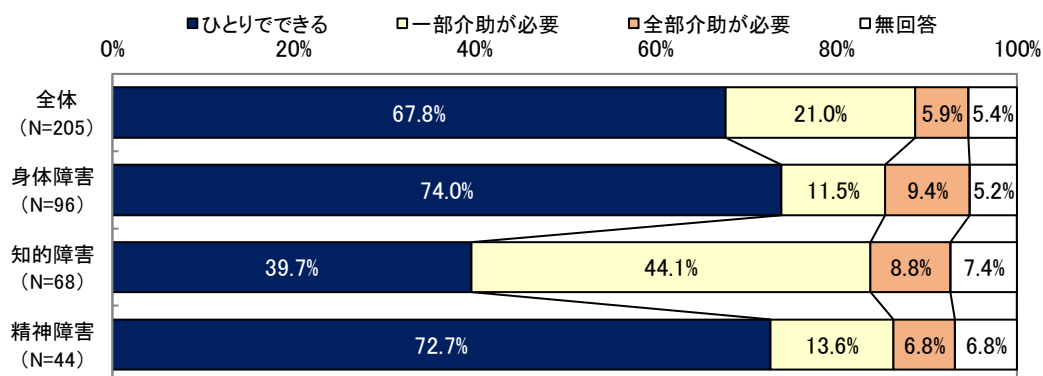
### ⑦ 外出について

外出について、身体障害(65.6%)・知的障害(44.1%)精神障害(70.5%)すべてにおいてひとりでできる」の割合が最も高くなっていますが、知的障害(35.3%)は「一部介助が必要」の割合もやや高くなっています。



### ⑧ 家族以外の人との意思疎通について

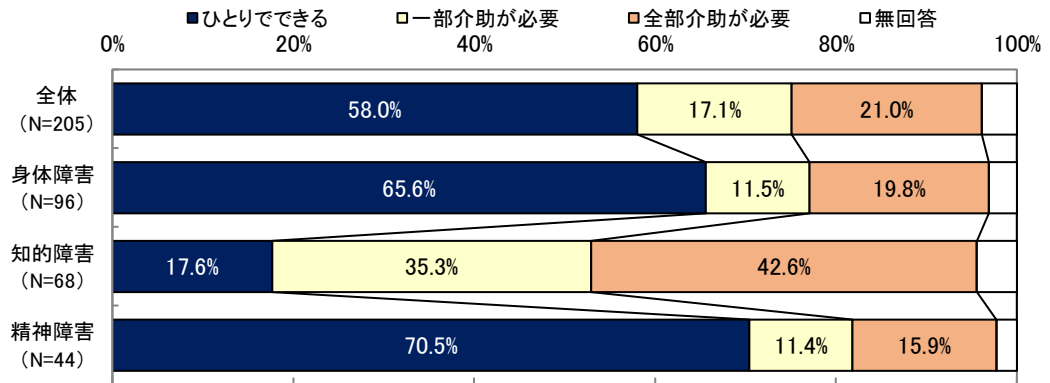
家族以外の人との意思疎通について、身体障害(74.0%)・精神障害(72.7%) は「ひとりでできる」の割合が最も高く、知的障害(44.1%)は「一部介助が必要」の割合が最も高くなっています。





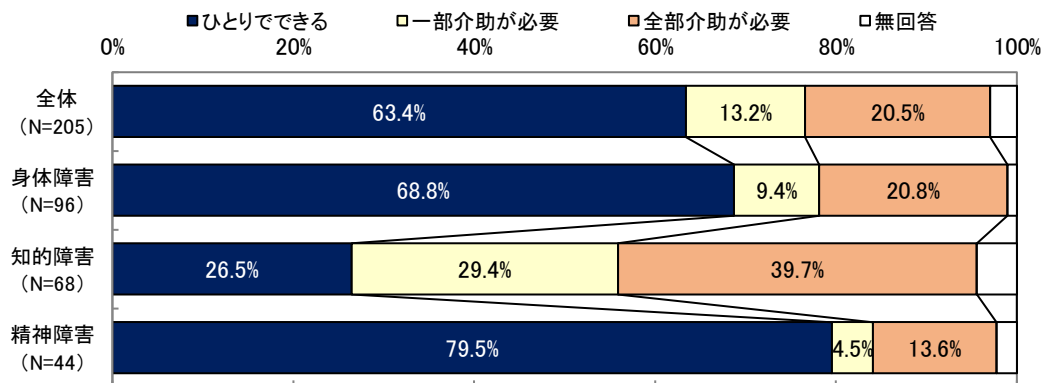
⑨ お金の管理について

お金の管理について、身体障害(65.6%)・精神障害(70.5%)は「ひとりでできる」の割合が最も高く、知的障害(42.6%)は「全部介助が必要」の割合が最も高くなっています。さらに知的障害(35.3%)は、「一部介助が必要」と回答しており、知的障害のおよそ8割がなんらかの介助が必要となっています。



⑩ 薬の管理について

薬の管理について、身体障害(68.8%)・精神障害(79.5%)は「ひとりでできる」の割合が最も高く、知的障害(39.7%)は「全部介助が必要」の割合が最も高くなっています。さらに知的障害(29.4%)は、「一部介助が必要」と回答しており、知的障害のおよそ7割がなんらかの介助が必要となっています。

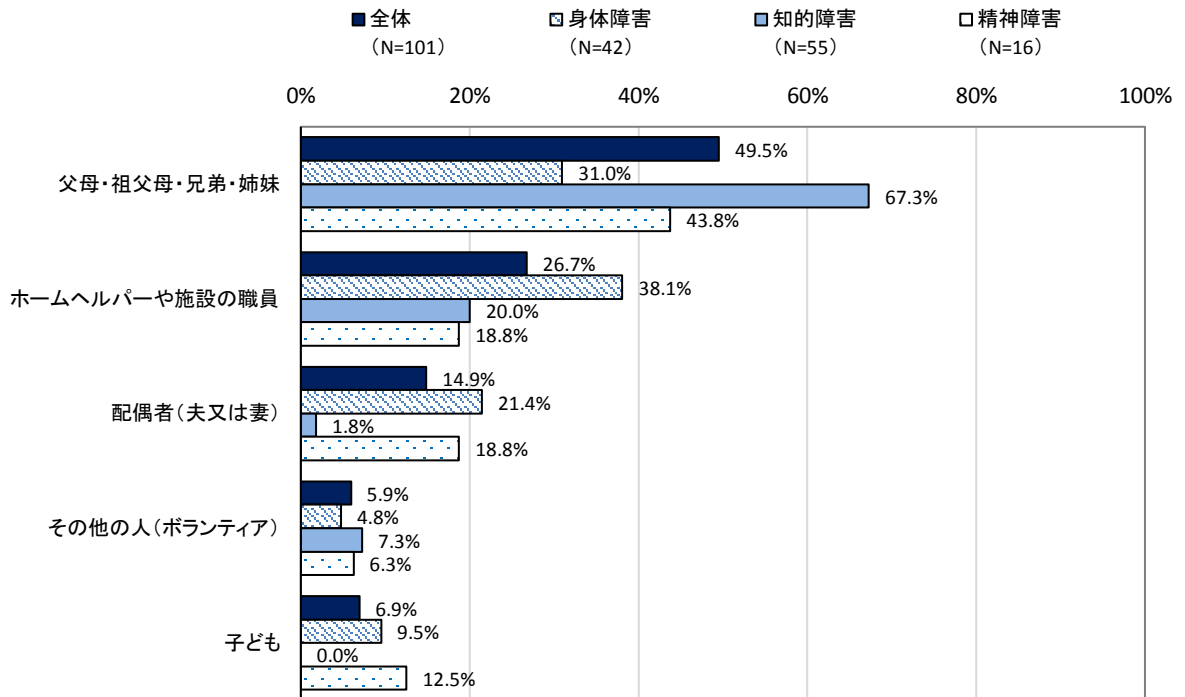


問7 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

※問6で「一部介助が必要」又は「全部介助が必要」を選択された方のみ

1. 父母・祖父母・兄弟・姉妹	2. ホームヘルパーや施設の職員	
3. 配偶者(夫または妻)	4. その他の人(ボランティア等)	5. 子ども

主な介助者について、知的障害(67.3%)・精神障害(43.8%)は「父母・祖父母・兄弟」の割合が最も高く、身体障害(38.1%)は「ホームヘルパーや施設の職員」の割合が最も高くなっています。

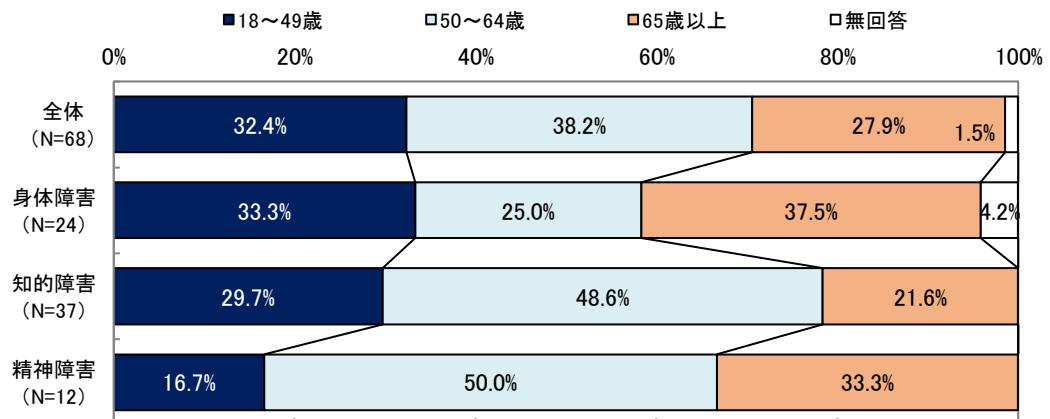


問8 あなたを介助してくれる家族で、特に中心となっている方の年齢、性別、健康状態をお答えください。

※問7で「1」「3」「5」を選択された方

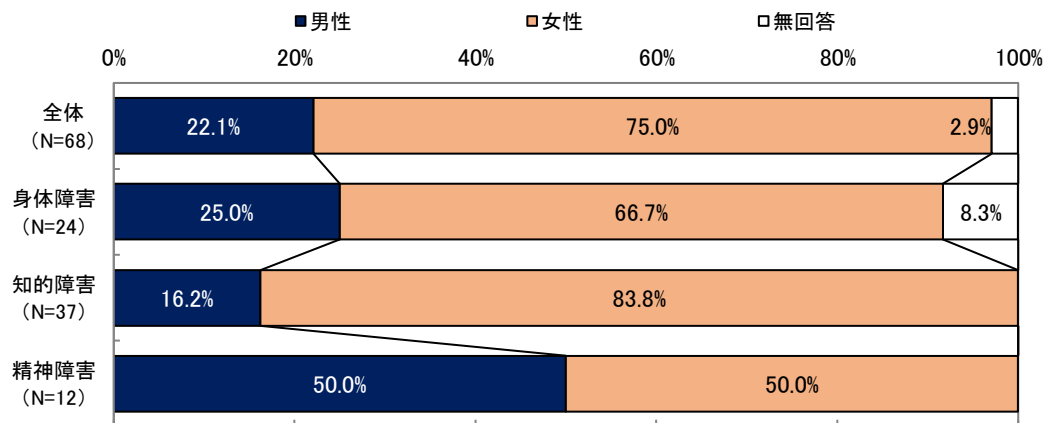
①年齢(平成29年4月1日現在)

介助者の年齢について、身体障害(37.5%)は「65歳以上」の割合が最も高く、知的障害(48.6%)・精神障害(50.0%)は「50～64歳」の割合が最も高くなっています。



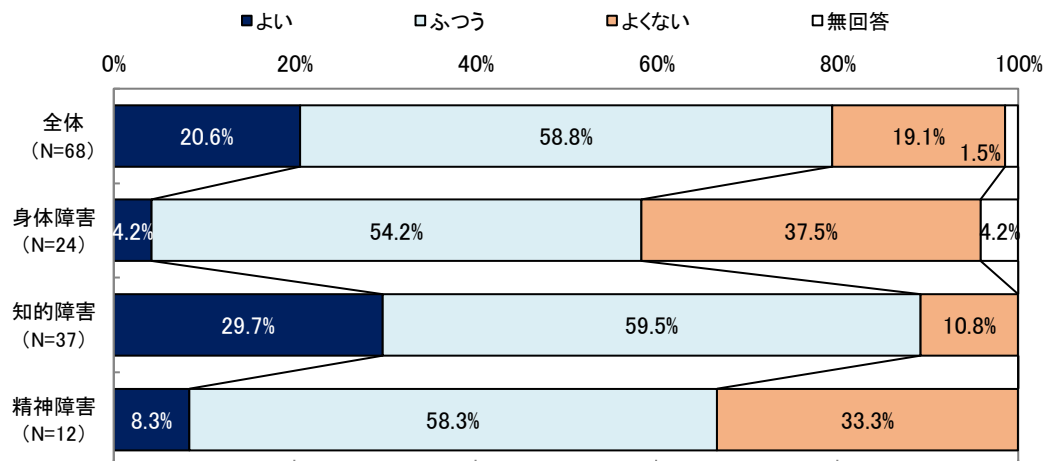
## ②性別

介助者の性別について、身体障害(66.7%)・知的障害(83.8%)は「女性」の割合が非常に高くなっています。精神障害は、「男性」「女性」ともに50%で同率となっています。



## ③健康状態

介助者の健康状態について、身体障害(54.2%)・知的障害(59.5%)・精神障害(58.3%)すべてにおいて「ふつう」の割合が最も高くなっています。その一方で、「よくない」と回答されている割合は身体障害(37.5%)・知的障害(10.8%)・精神障害(33.3%)となっています。

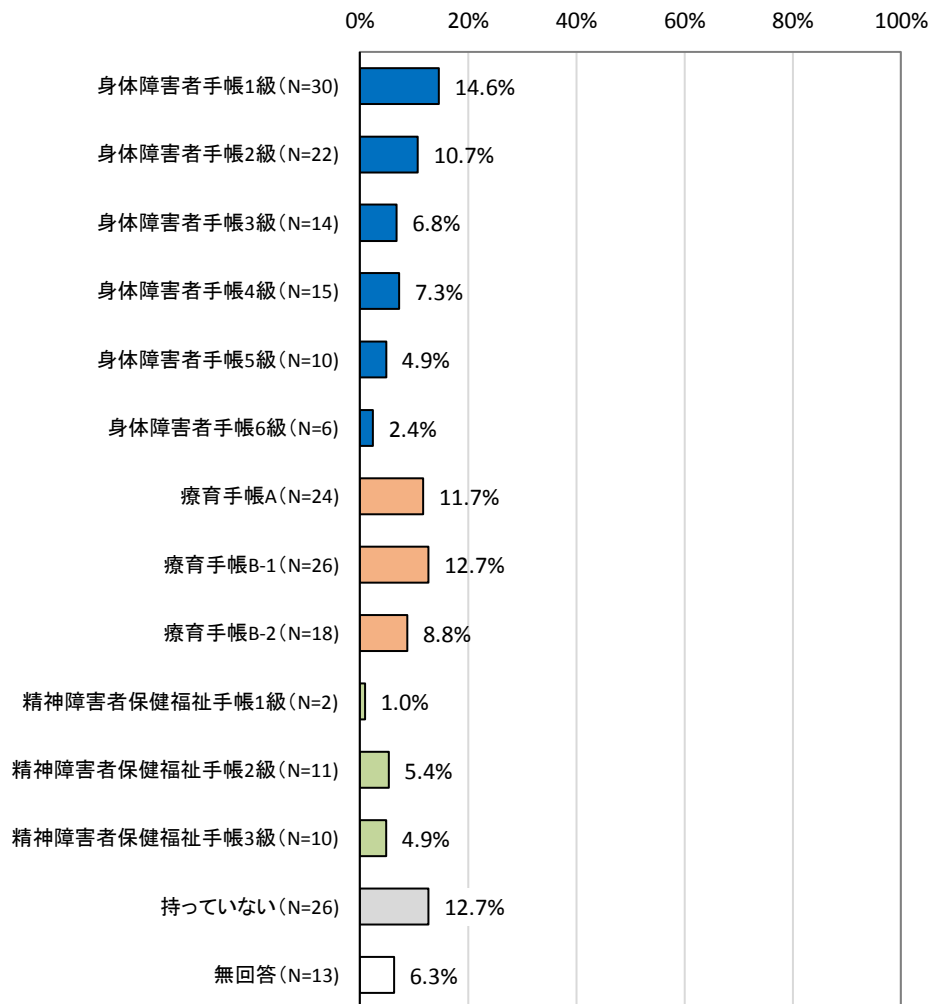


## 2 あなたの障害の状況について

問9 「あなた」は下記の手帳をお持ちですか(あてはまるものすべてに○)

- |                   |                   |              |
|-------------------|-------------------|--------------|
| 1. 身体障害者手帳1級      | 2. 身体障害者手帳2級      | 3. 身体障害者手帳3級 |
| 4. 身体障害者手帳4級      | 5. 身体障害者手帳5級      | 6. 身体障害者手帳6級 |
| 7. 療育手帳 A         | 8. 療育手帳 B-1       | 9. 療育手帳 B-2  |
| 10. 精神障害者保健福祉手帳1級 | 11. 精神障害者保健福祉手帳2級 |              |
| 12. 精神障害者保健福祉手帳3級 | 13. 持っていない        |              |

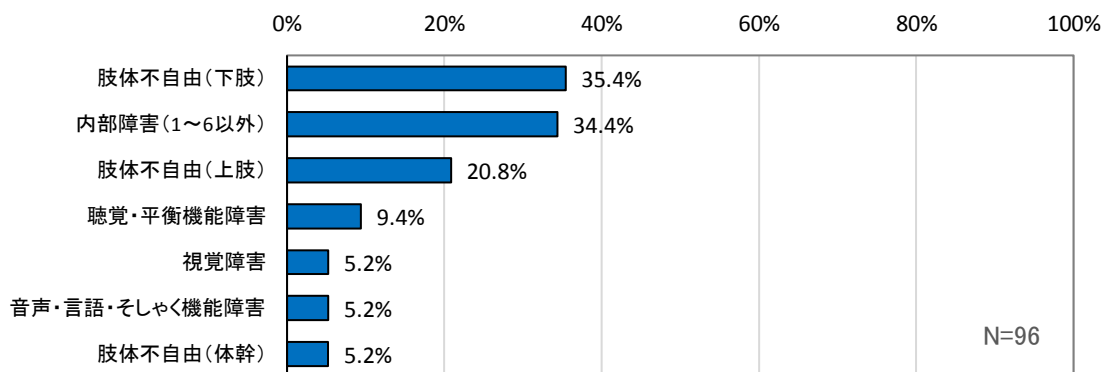
障害者手帳所持の有無について、持っていない(26人)、無回答(13人)を除くと166人の方が身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳(いずれかあるいは複数)を持っています。その中で身体障害者手帳1級(14.6%)の割合が最も高く、続いて療育手帳B-1(12.7%)、療育手帳A(11.7%)、身体障害者手帳2級(10.7%)となっています。



問 10 身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。障がいの種類はなんですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

- |                |              |                   |
|----------------|--------------|-------------------|
| 1. 視覚障害        | 2. 聴覚・平衡機能障害 | 3. 音声・言語・そしゃく機能障害 |
| 4. 肢体不自由(上肢)   | 5. 肢体不自由(下肢) | 6. 肢体不自由(体幹)      |
| 7. 内部障害(1～6以外) |              |                   |

障害者手帳所持の方の障がいの種類について、身体不自由(下肢)が 35.4%と最も高く、次いで内部障害(1～6以外)となっています。

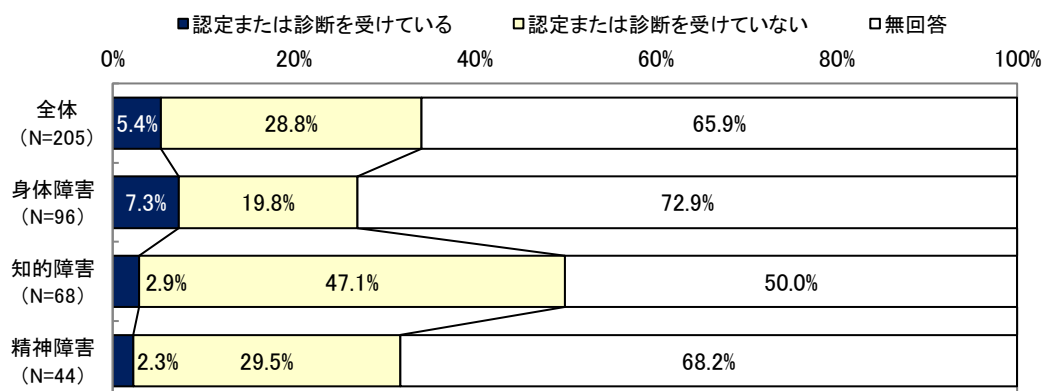


問 11 あなたは次の認定または診断を受けていますか。(①～④それぞれ1つに○)

項目	認定または診断を受けている	認定または診断を受けていない
①難病	1	2
②発達障害	1	2
③高次脳機能障害	1	2
④精神障害(②③を除く)	1	2

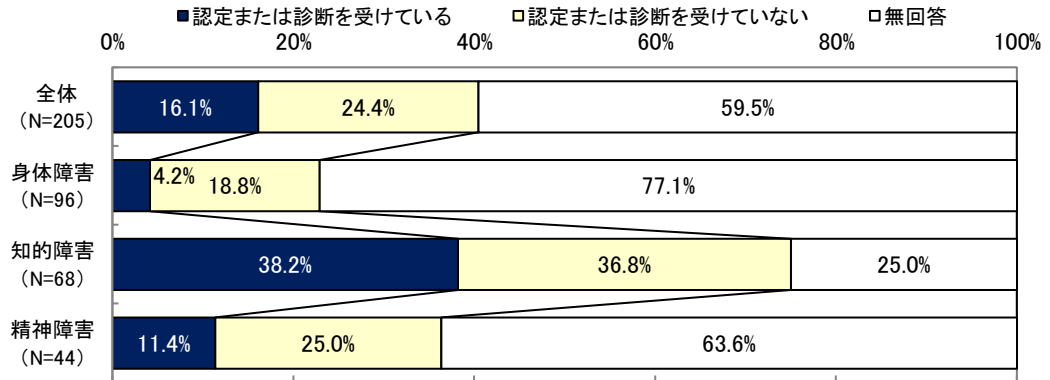
① 難病

全体でみると無回答の割合が 65.9%と非常に高いため、無回答も認定または診断を受けていないと仮定した場合は、全体で 5.4%の方が難病の認定または診断を受けています。



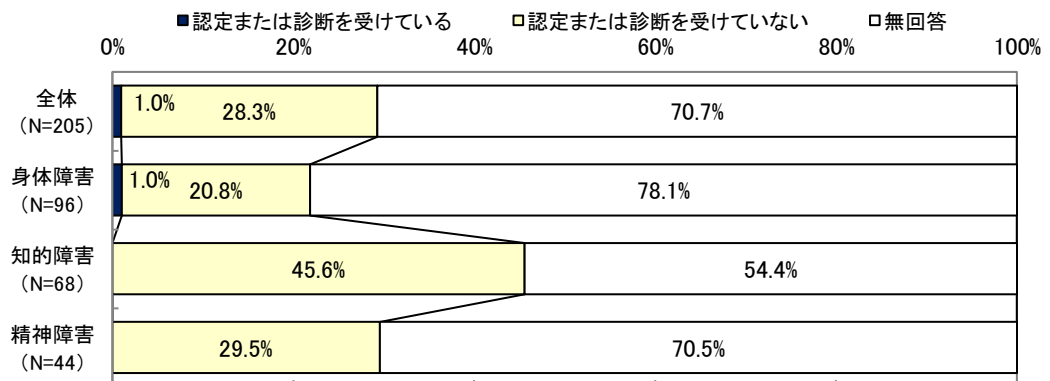
## ② 発達障害

全体で見ると無回答の割合が 59.5%と非常に高いため、無回答も認定または診断を受けていないと仮定した場合は、全体で 16.1%の方が発達障害の認定または診断を受けています。



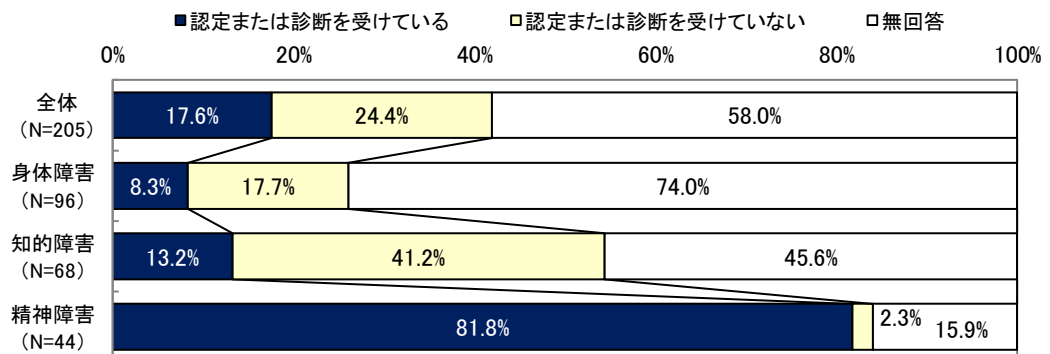
## ③ 高次脳機能障害

全体で見ると無回答の割合が 70.7%と非常に高いため、無回答も認定または診断を受けていないと仮定した場合は、全体で 1.0%の方が高次脳機能障害の認定または診断を受けています。



## ④ 精神障害(②③を除く)

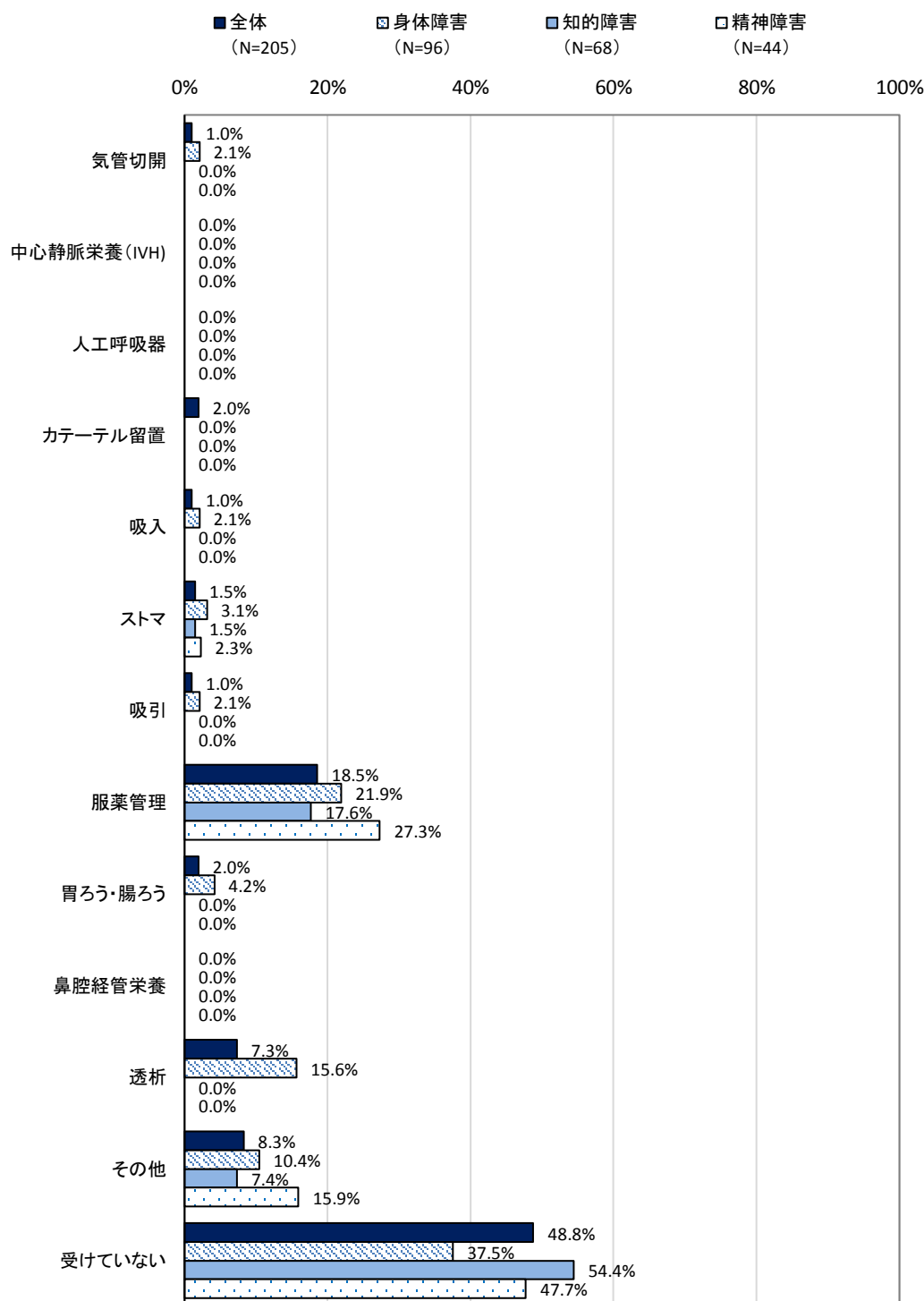
全体で見ると無回答の割合が 58.0%と非常に高いため、無回答も認定または診断を受けていないと仮定した場合は、全体で 17.6%の方が精神障害の認定または診断を受けています。



問 12 あなたが現在受けている医療ケアをご回答ください。(あてはまるものすべてに○)

- |             |                 |                    |
|-------------|-----------------|--------------------|
| 1. 気管切開     | 2. 中心静脈栄養 (IVH) | 3. 人工呼吸器 (レスピレーター) |
| 4. カテーテル留置  | 5. 吸入           | 6. ストマ (人工肛門・人工膀胱) |
| 7. 吸引       | 8. 服薬管理         |                    |
| 9. 胃ろう・腸ろう  | 10. 鼻腔経管栄養      | 11. 透析             |
| 12. その他 ( ) | 13. 受けていない      |                    |

現在受けている医療ケアについて、「受けていない」と回答した割合が全てにおいて最も高く、受けている医療ケアを回答した中では、身体障害(21.9%)・知的障害(17.6%)・精神障害(27.3%)すべてにおいて「服薬管理」が最も高くなっています。

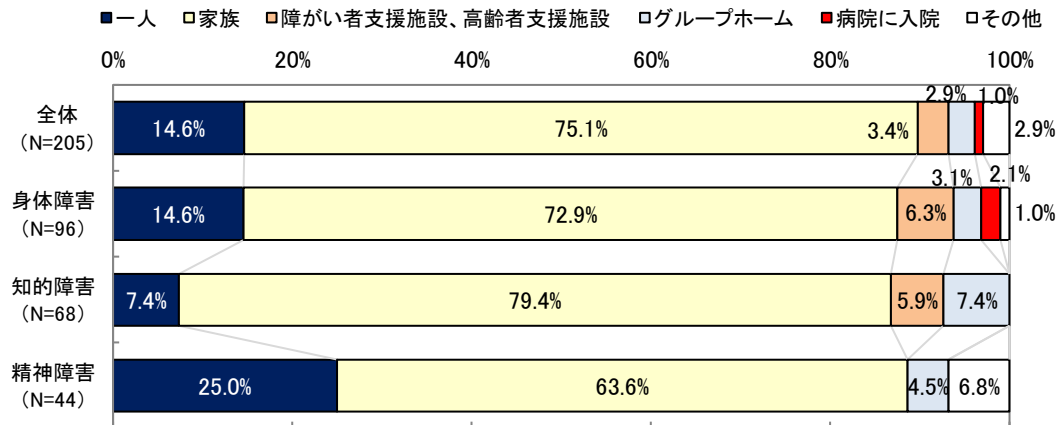


### 3 住まいや暮らしについて

問 13 あなたは、どこで暮らしていますか。(1つに○)

- |              |              |                     |
|--------------|--------------|---------------------|
| 1. 一人で暮らしている | 2. 家族と暮らしている | 3. 障がい者支援施設、高齢者支援施設 |
| 4. グループホーム   | 5. 病院に入院している | 6. その他( )           |

暮らしについて、身体障害(72.9%)・知的障害(79.4%)・精神障害(63.6%)すべてにおいて「家族と暮らしている」の割合が最も高くなっています。その一方で「一人で暮らしている」と回答したのは精神障害(25.0%)が最も高く、精神障害を持つ4人に1人の割合となっています。



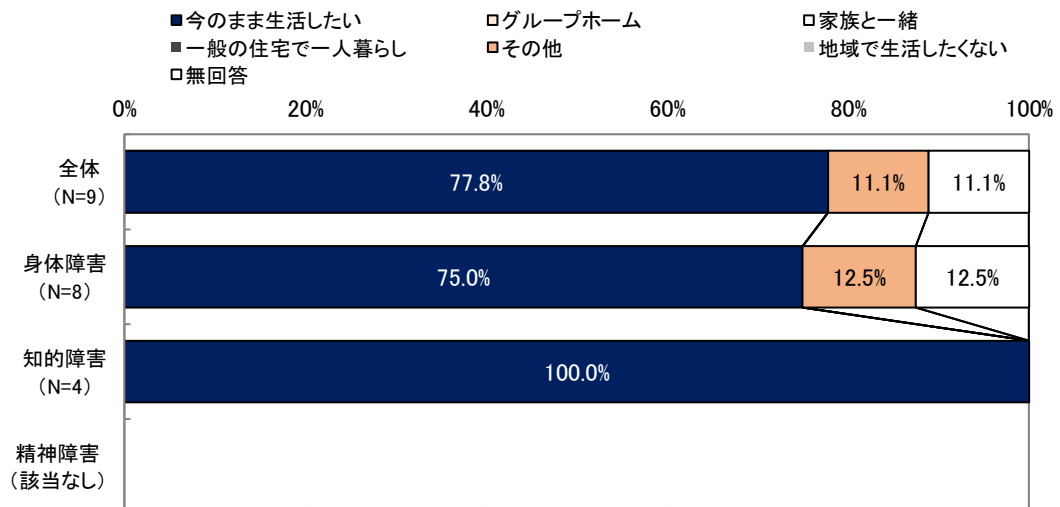
問 14 あなたは将来、地域でどのように生活したいと思いますか。(1つに○)

※児童・生徒の方は大人になってからの生活を想定してお答えください。

※問 13 で「障がい者支援施設、高齢者支援施設」または「病院に入院している」を選択した場合に回答

- |                    |                    |                    |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 今のまま生活したい       | 2. グループホームなどを利用したい | 3. 家族と一緒に生活したい     |
| 4. 一般の住宅で一人暮らしをしたい | 5. その他( )          | 6. 地域で生活したくない(理由 ) |

将来、地域でどのように生活したいかについて、身体障害(75.0%)・知的障害(100%)は「今のまま生活したい」の割合が最も高くなっています。精神障害は、該当者がおりません。





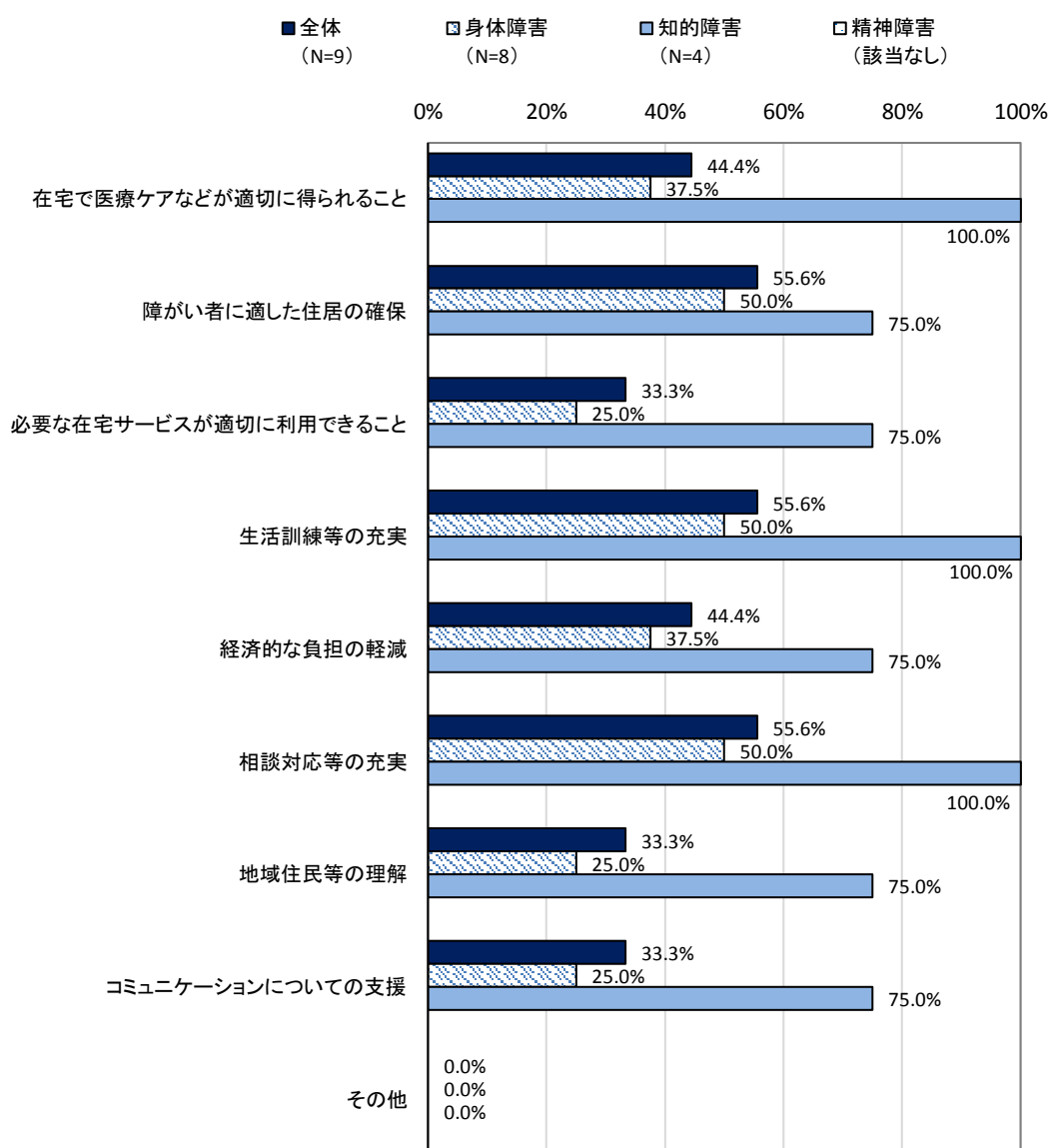
問 15 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

※問 13 で「障がい者支援施設、高齢者支援施設」または「病院に入院している」を選択した場合に回答

1. 在宅で医療ケアなどが適切に得られること	2. 障がい者に適した住居の確保
3. 必要な在宅サービスが適切に利用できること	4. 生活訓練等の充実
5. 経済的な負担の軽減	6. 相談対応等の充実
7. 地域住民等の理解	9. その他 ( )
8. コミュニケーションについての支援	

地域で生活するためには、どのような支援があればよいのかについて、身体障害は、「障がい者に適した住居の確保」(50.0%)、「生活訓練等の充実」(50.0%)、「相談対応の充実」(50.0%)の3項目の割合が最も高く、知的障害は、「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」(100%)、「生活訓練等の充実」(100%)、「相談対応の充実」(100%)の3項目の割合が最も高くなっています。



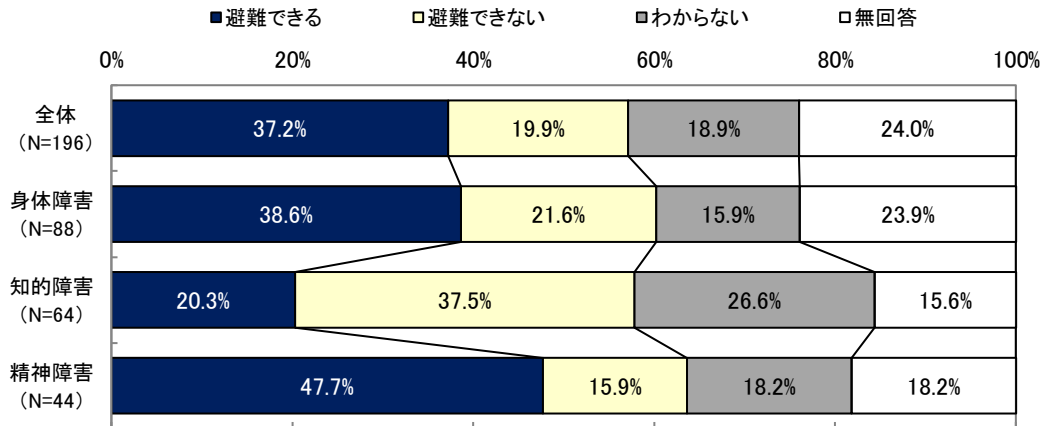


問 18 あなたは、地震・火事などの災害時に一人で避難できますか。(1つに○)

※自宅やグループホームなどで生活をしている方対象

- |          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 1. 避難できる | 2. 避難できない | 3. わからない |
|----------|-----------|----------|

災害時に一人で避難できるかについて、身体障害(38.6%)・精神障害(47.7%)は、「避難できる」の割合が最も高くなっています。その一方で知的障害は、「避難できない」(37.5%)の割合が最も高く、次いで「わからない」(26.6%)と、他の障がいと比べて知的障害は一人で避難できる方の割合が低くなっています。

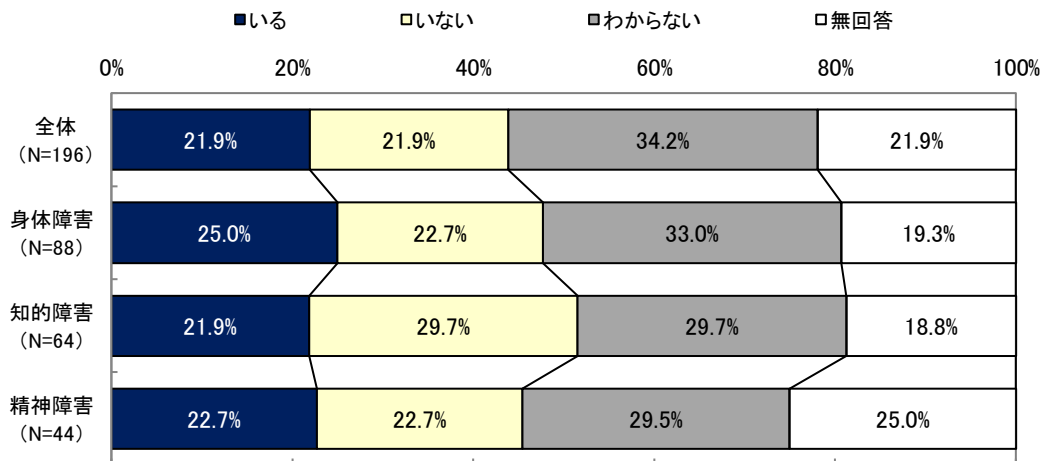


問 19 災害時に、ご家族以外で近所に助けてくれる人はいますか。(1つに○)

※自宅やグループホームなどで生活をしている方対象

- |       |        |          |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

災害時にご家族以外で近所に助けてくれる人がいるかについて、「いる」と回答したのは、身体障害(25.0%)、精神障害(21.9%)、精神障害(22.7%)といずれも2割程度に留まっており、家族以外で近所に助けてくれる人が少ないことがわかります。

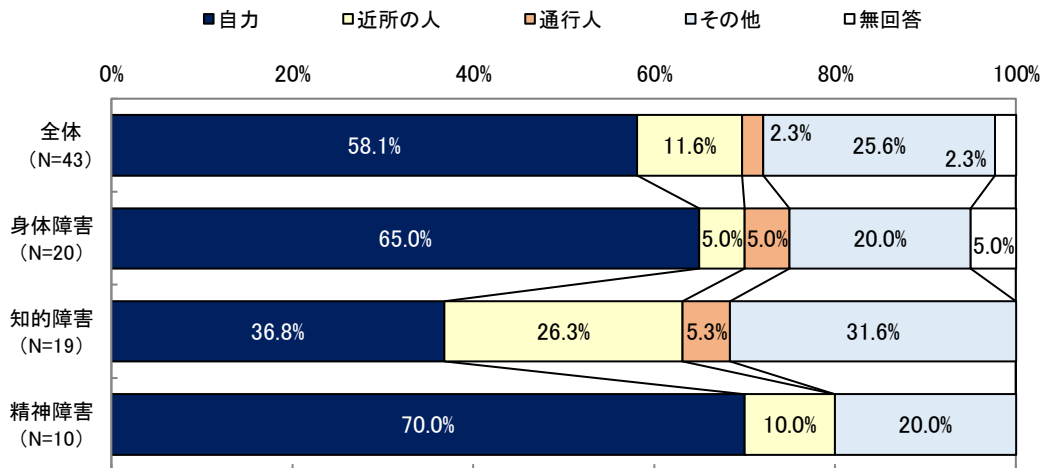


問 20 実際の災害発生時には、どうやって避難しますか。(災害時には、公民館長や民生委員、救急隊員や地域の消防団員は、被害が大きいためすべての人の避難の手助けをすることは、困難であると言われています)

※自宅やグループホームなどで生活をしていて問 19 で「2 いない」を選択した方対象

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 自力で避難する             | 2. 近所の人に声をかけて一緒に避難してもらう |
| 3. 通行人に声をかけて一緒に避難してもらう | 4. その他( )               |

災害発生時にご家族以外で近所に助けてくれる人がいない場合の避難については、身体障害(65.0%)・知的障害(36.8%)・精神障害(70.0%)すべてにおいて、「自力で避難する」の割合が最も高くなっています。



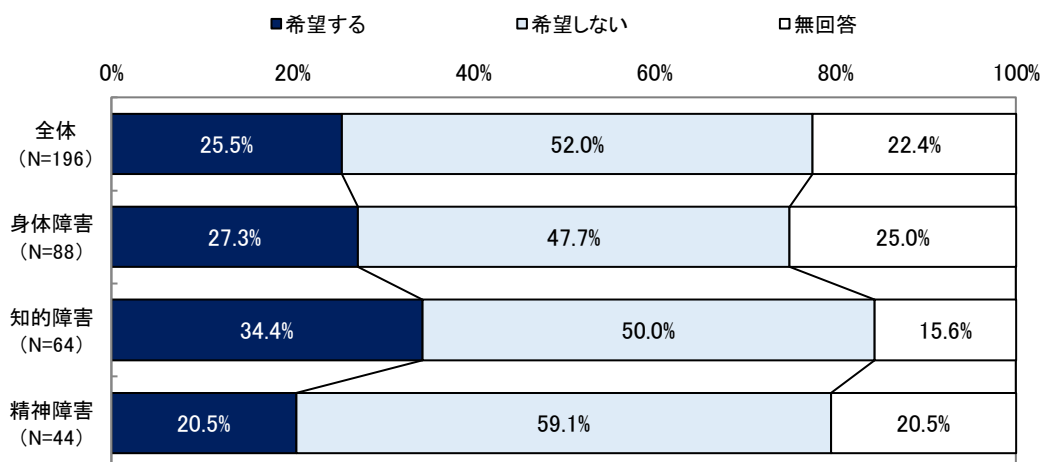
問 21 あなたは、個別支援計画の作成を希望しますか。(1つに○)

※自宅やグループホームなどで生活をしている方対象

※個別支援計画:災害時に支援が必要な方ごとに、災害が発生した場合の避難場所や経路、避難の支援を行う人などについて、事前に定めたもの

- |         |          |
|---------|----------|
| 1. 希望する | 2. 希望しない |
|---------|----------|

個別支援計画について、「希望する」と回答した割合は、身体障害(27.3%)・知的障害(34.4%)・精神障害(20.5%)で、2割から3割の方が望んでいます。

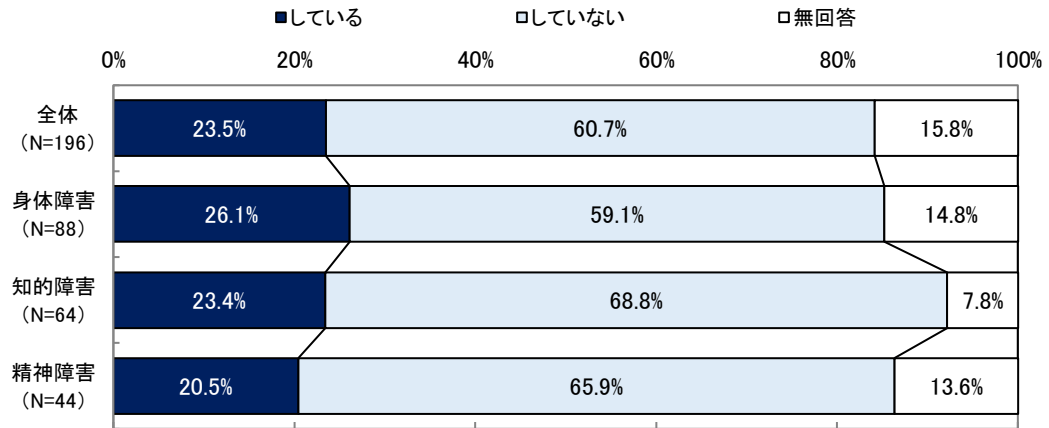


問 22 あなたは、防災グッズなど日常の備えをしていますか。(1つに○)

※自宅やグループホームなどで生活をしている方対象

1. している 2. していない

日常の備えについて、「していない」と回答した割合は、身体障害(59.1%)・知的障害(68.8%)・精神障害(65.9%)で、「している」より大きく上回っています。



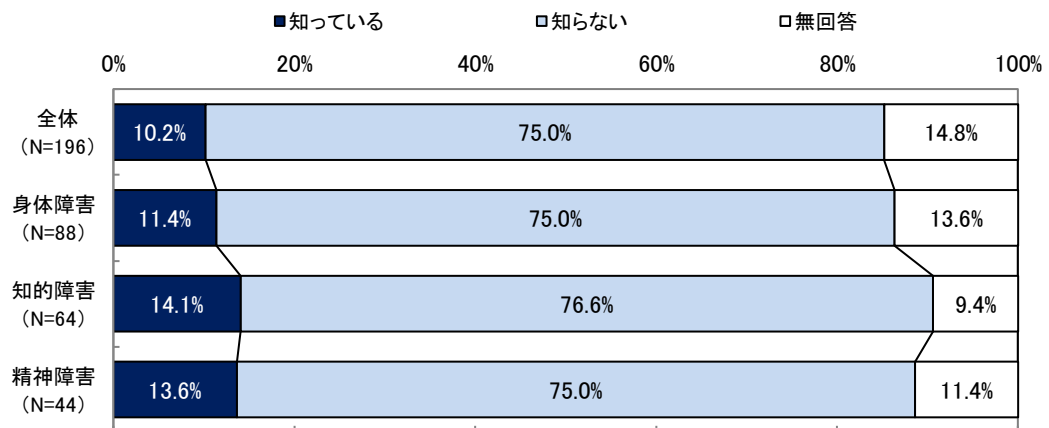
問 23 あなたは、特別な支援が必要な方を受け入れる「福祉避難所」という避難所があることを知っていますか。(1つに○)

※自宅やグループホームなどで生活をしている方対象

※福祉避難所: 体の不自由な高齢者や障がい者などのうち避難所において特別な支援が必要な方を受け入れることができるよう、バリアフリー化や相談員を配置するなど安心して避難できる体制を整備した避難所。

1. 知っている 2. 知らない

「福祉避難所」という避難所があることを知っているかについて、「知らない」と回答した割合は、身体障害(75.0%)・知的障害(76.6%)・精神障害(75.0%)となっており、「知っている」より大きく上回っています。



問 24 あなたは、福祉避難所の設備として何があればよいと思いますか。

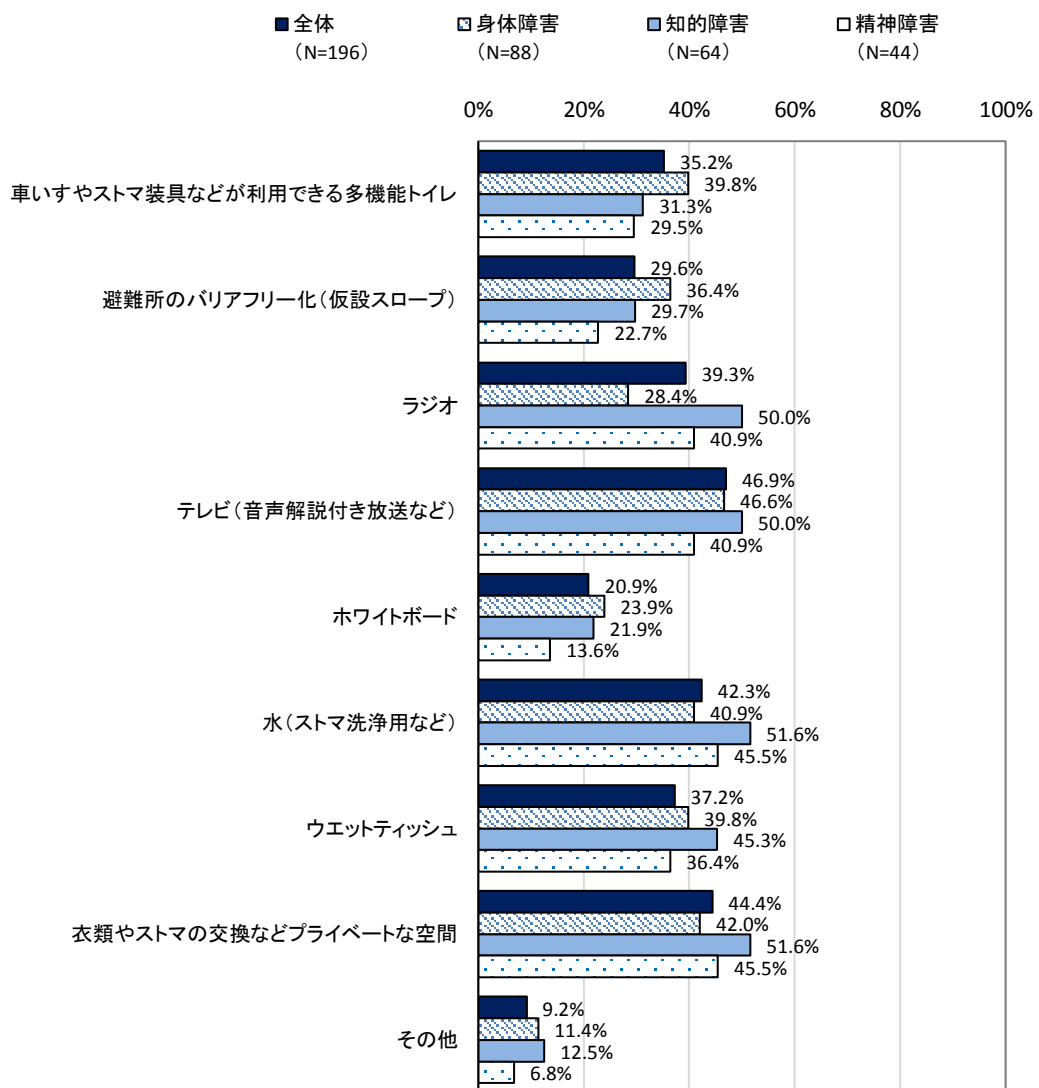
(あてはまるものすべてに○)

※自宅やグループホームなどで生活をしている方対象

※福祉避難所:体の不自由な高齢者や障がい者などのうち避難所において特別な支援が必要な方を受け入れることができるよう、バリアフリー化や相談員を配置するなど安心して避難できる体制を整備した避難所。

- |   |                |
|---|----------------|
| 1. 車いすやストマ装具などが利用できる多機能トイレ              | 3. ラジオ         |
| 2. 避難所のバリアフリー化(仮設スロープ)                  | 6. 水(ストマ洗浄用など) |
| 4. テレビ(音声解説付き放送・字幕・手話放送)                |                |
| 5. ホワイトボード(聴覚障がい者への情報提供)                |                |
| 7. ウエットティッシュ                            |                |
| 8. 衣類やストマの交換、視覚的な刺激の除去のためのプライベートな空間(個室) |                |
| 9. その他 ( )                              |                |

福祉避難所の設備として希望するものは、身体障害(46.6%)は、「テレビ(音声解説付き放送・字幕・手話放送)」の割合が最も高く、知的障害(51.6%)・精神障害(45.5%)は、「水(ストマ洗浄用など)」と「衣類やストマの交換、視覚的な刺激の除去のためのプライベートな空間(個室)」が最も高くなっています。



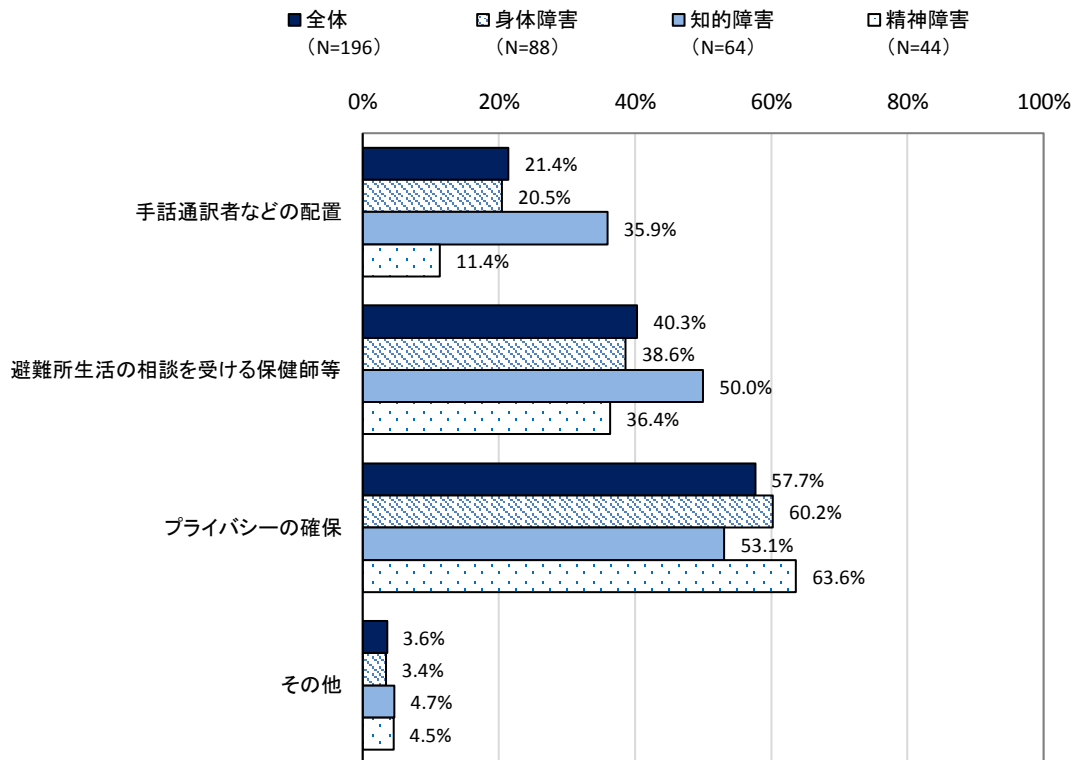
問 25 あなたは、福祉避難所の配慮として何があればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

※自宅やグループホームなどで生活をしている方対象

- |                              |                     |              |            |
|------------------------------|---------------------|--------------|------------|
| 1. 手話通訳者・要約筆記者・同行援護ヘルパーなどの配置 | 2. 避難所生活の相談を受ける保健師等 | 3. プライバシーの確保 | 4. その他 ( ) |
|------------------------------|---------------------|--------------|------------|

福祉避難所の配慮で希望するものは、身体障害(60.2%)・知的障害(53.1%)・精神障害(63.6%)すべてにおいて、「プライバシーの確保」の割合が最も高くなっています。



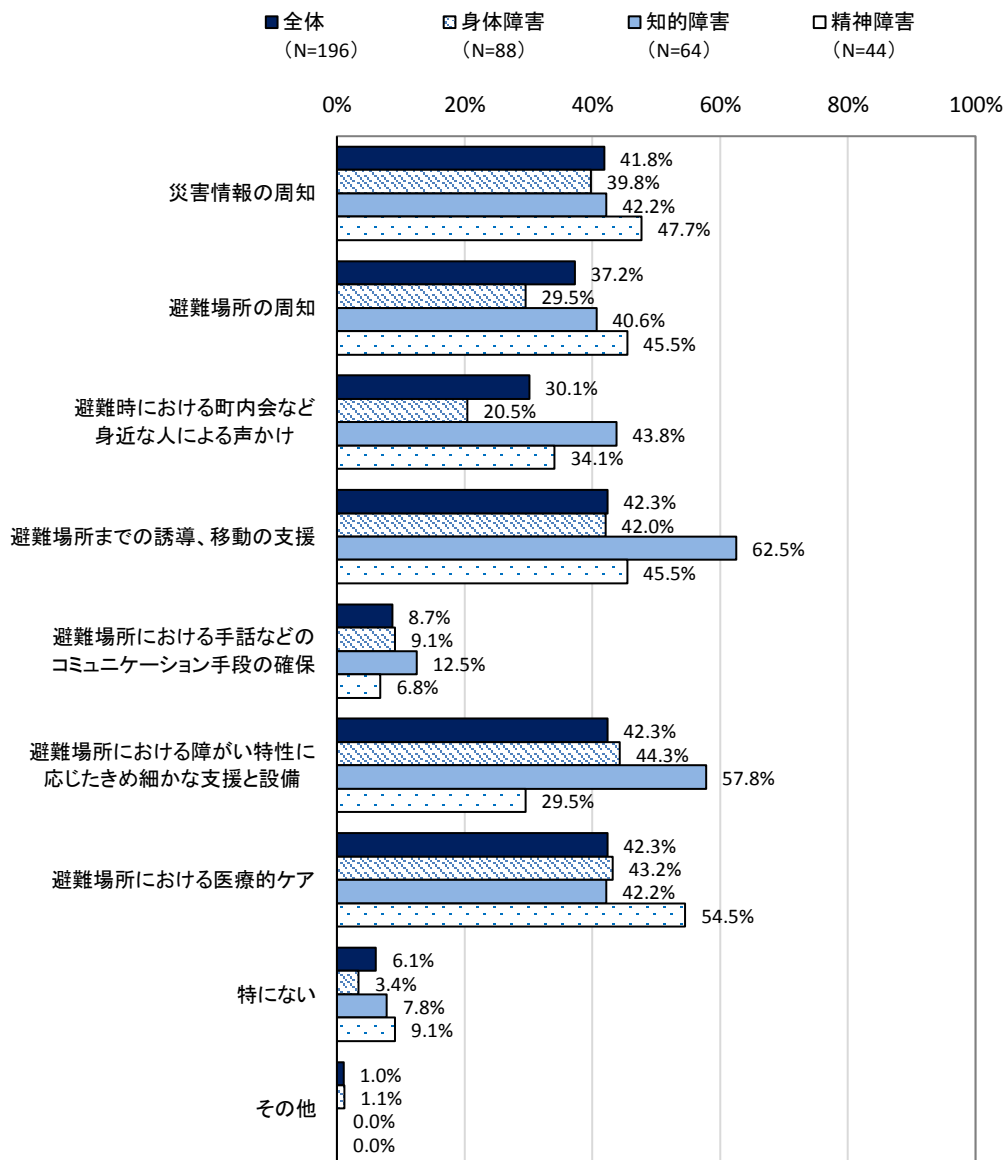
問 26 あなたが、災害発生時に支援してほしいことはなんですか。

(あてはまるものすべてに○)

※自宅やグループホームなどで生活をしている方対象

- |                                |                |
|--------------------------------|----------------|
| 1. 災害情報の周知                     | 2. 避難場所の周知     |
| 3. 避難時における町内会など身近な人による声かけ      |                |
| 4. 避難場所までの誘導、移動の支援             |                |
| 5. 避難場所における手話などのコミュニケーション手段の確保 |                |
| 6. 避難場所における障がい特性に応じたきめ細かな支援と設備 |                |
| 7. 避難場所における医療ケア                | 8. 特にない        |
|                                | 9. その他(具体的に: ) |

災害発生時に支援してほしいことの割合が最も高いものは、身体障害(44.3%)は、「避難場所における障がい特性に応じたきめ細かな支援と設備」、知的障害(62.5%)は、「避難場所までの誘導、移動の支援」となり、精神障害 (54.5%)は、「避難場所における医療ケア」となっています。



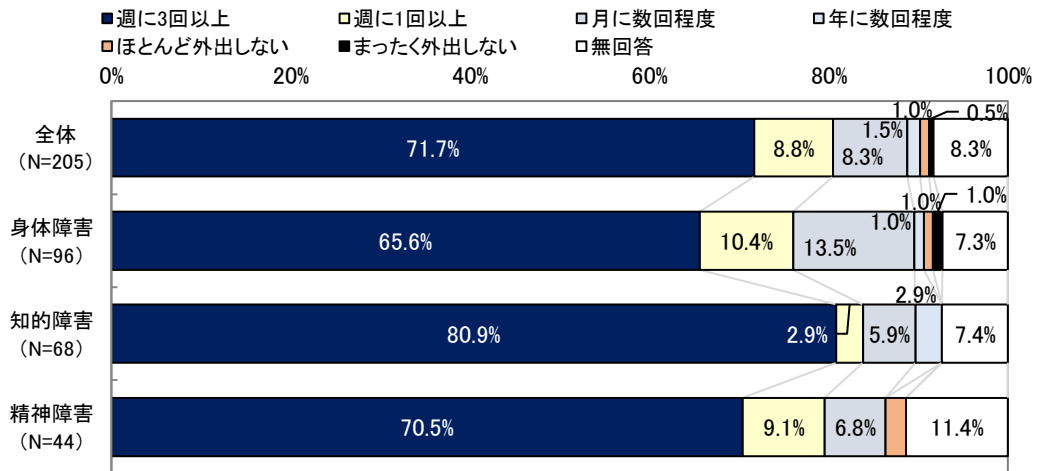


5 日中活動や就労について

問 27 あなたは、どのくらいの頻度で外出しますか。(通勤、通学、通院を含む)(1つに○)

1. 週に3回以上    2. 週に1回以上    3. 月に数回程度    4. 年に数回程度  
5. ほとんど外出しない    6. まったく外出しない

外出の頻度について、身体障害(65.6%)・知的障害(80.9%)・精神障害(70.5%)すべてにおいて「週3回以上」の割合が最も高くなっています。全体でみるとおよそ 9 割が外出をしており、「ほとんど外出しない」と「まったく外出しない」と回答した割合を合わせると 1.5%となっています。

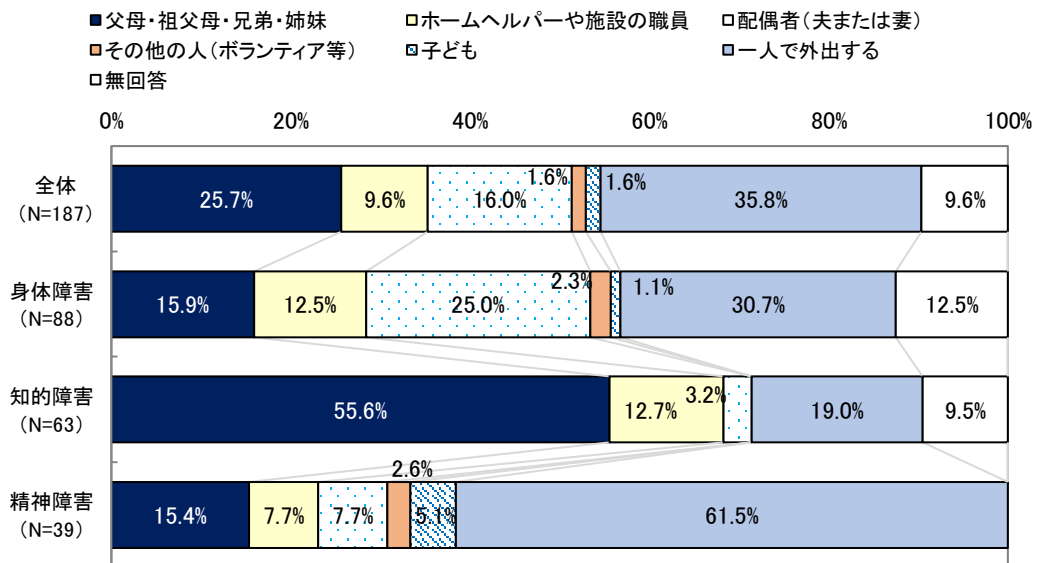


問 28 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか(1つに○)

※問 27 で「まったく外出しない」以外を選択した方対象

1. 父母・祖父母・兄弟・姉妹    2. ホームヘルパーや施設の職員    3. 配偶者(夫または妻)  
4. その他的人(ボランティア等)    5. 子ども    6. 一人で外出する

外出の際の主な同伴者について、身体障害(30.7%)・精神障害(61.5%)は「一人で外出する」、知的障害(55.6%)は「父母・祖父母・兄弟・姉妹」の割合が最も高くなっています。



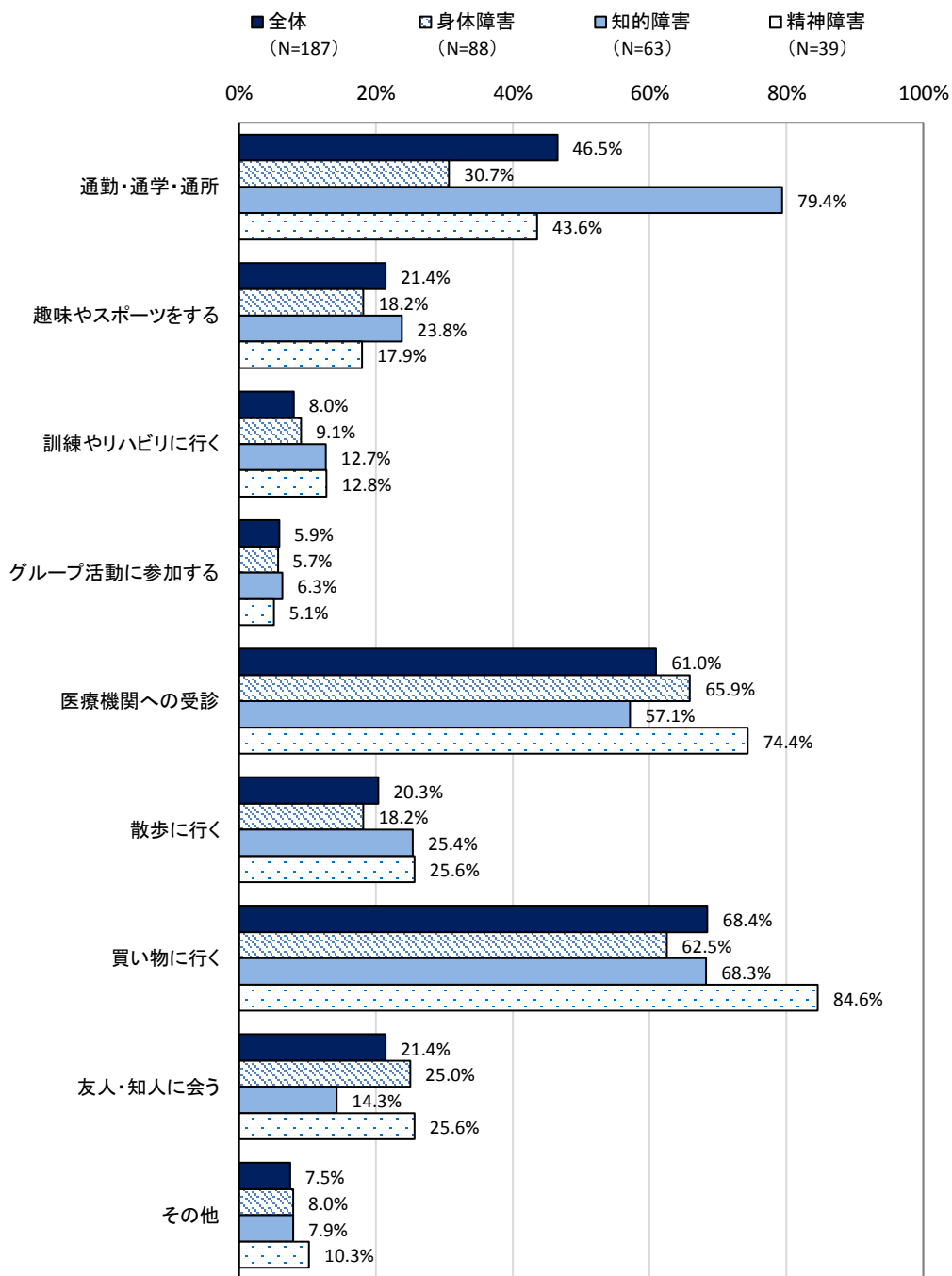
問 29 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。

(あてはまるものすべてに○)

※問 27 で「まったく外出しない」以外を選択した方対象

- |                |               |               |
|----------------|---------------|---------------|
| 1. 通勤・通学・通所    | 2. 趣味やスポーツをする | 3. 訓練やリハビリに行く |
| 4. グループ活動に参加する | 5. 医療機関への受診   | 6. 散歩に行く      |
| 7. 買い物に行く      | 8. 友人・知人に会う   | 9. その他 ( )    |

外出の目的は、身体障害(65.9%)は、「医療機関への受診」の割合が最も高く、知的障害(79.4%)は、「通勤・通学・通所」、精神障害(84.6%)は、「買い物に行く」の割合が最も高くなっています。

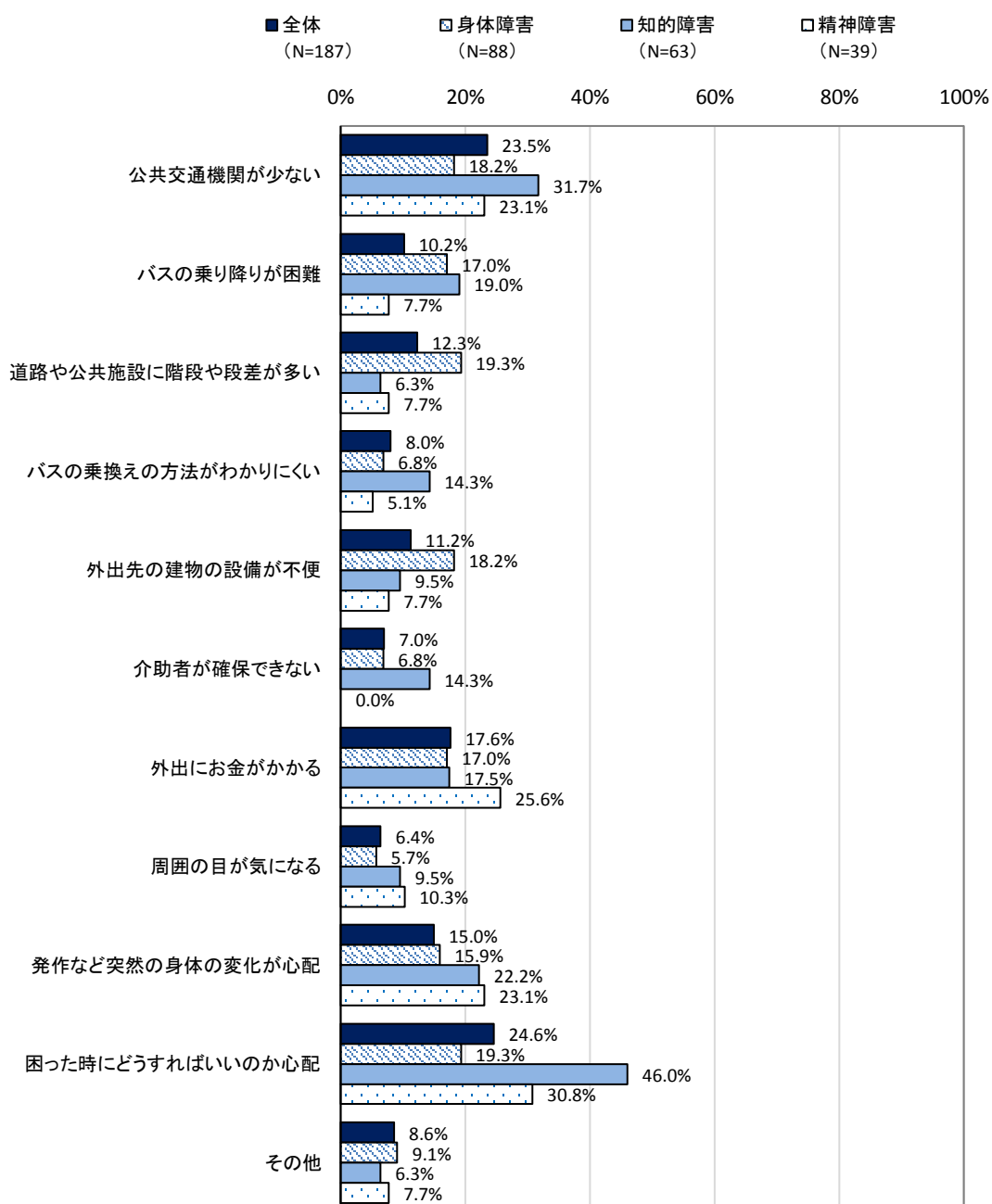


問 30 外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※問 27 で「まったく外出しない」以外を選択した方対象

- |                                  |                     |
|----------------------------------|---------------------|
| 1. 公共交通機関が少ない(ない)                | 2. バスの乗り降りが困難       |
| 3. 道路や公共施設に階段や段差が多い              | 4. バスの乗換えの方法がわかりにくい |
| 5. 外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど) |                     |
| 6. 介助者が確保できない                    | 7. 外出にお金がかかる        |
| 8. 周囲の目が気になる                     | 9. 発作など突然の身体の変化が心配  |
| 10. 困った時にどうすればいいのかが心配            | 11. その他( )          |

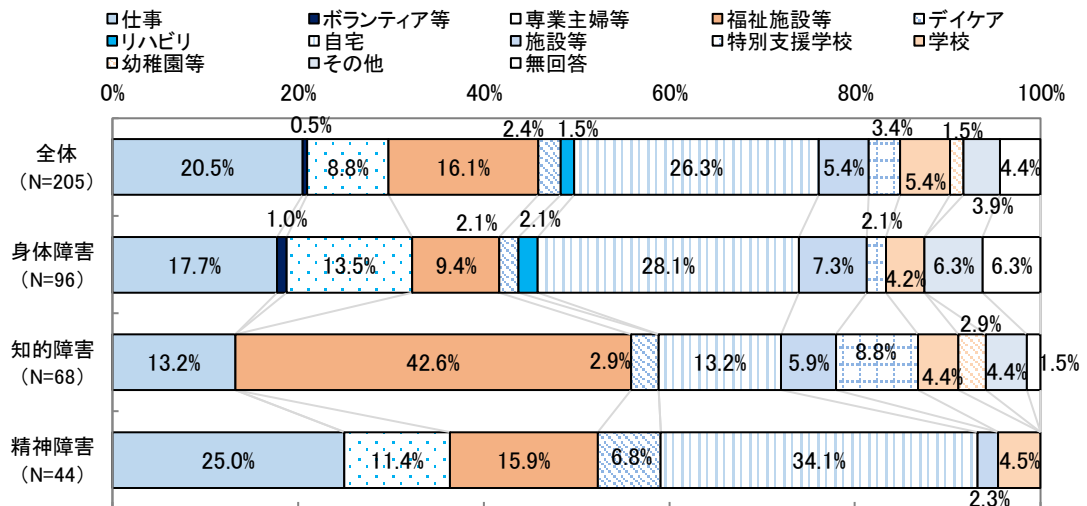
外出する時に困ることは、知的障害(46.0%)・精神障害(30.8%)は、「困った時にどうすればいいのかが心配」の割合が最も高くなっています。また、身体障害(19.3%)は、「困った時にどうすればいいのかが心配」と「道路や公共施設に階段や段差が多い」の割合が同率で最も高くなっています。



問 31 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(1つに○)

1. 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている
2. ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている
3. 専業主婦（主夫）をしている
4. 福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援 A 型も含む）
5. 病院などのデイケアに通っている
6. リハビリテーションを受けている
7. 自宅で過ごしている
8. 入所している施設や病院等で過ごしている
9. 特別支援学校（小中高等部）に通っている
10. 一般の高校、小中学校に通っている
11. 幼稚園、保育所に通っている
12. その他（ ）

平日の日中の過ごし方は、身体障害(28.1%)・精神障害(34.1%)は、「7. 自宅で過ごしている」、知的障害(42.6%)は「4. 福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援 A 型も含む)」の割合が最も高くなっています。全体でみると「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」と回答したかは約 2 割となっています。

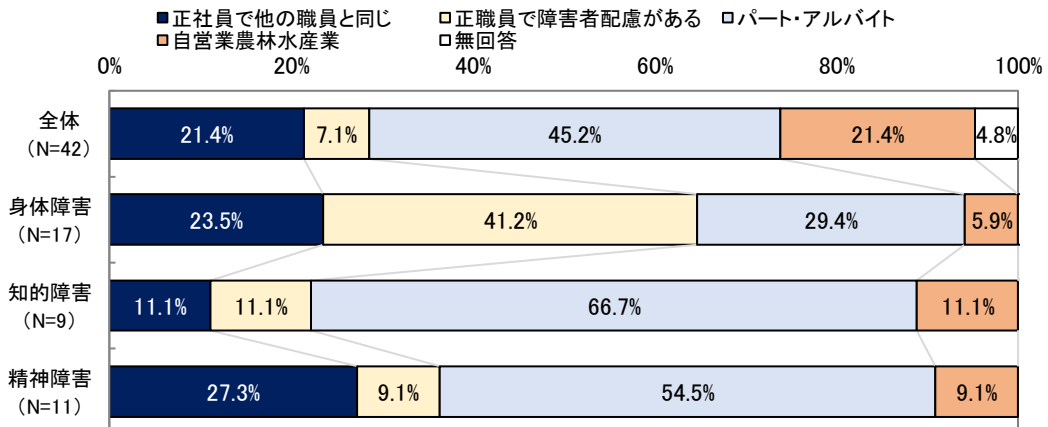


問 32 どのような勤務形態で働いていますか。(1つに○)

※問 31 で「収入を得る仕事」を選択した方

1. 正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない
2. 正職員で短時間勤務などの障害者配慮がある
3. パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員
4. 自営業、農林水産業など

勤務形態は、全体でみると「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」(45.2%)の割合が最も高く半数近くを占めています。

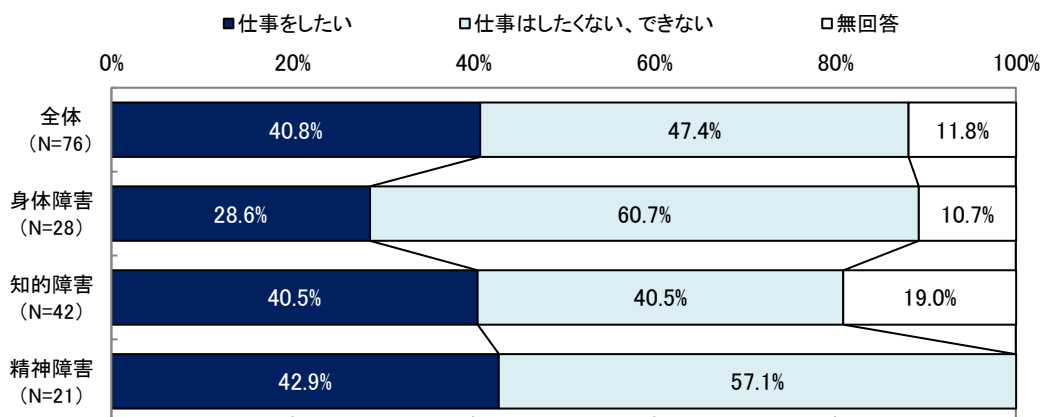


問 33 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(1つに○)

※問 31 で「収入を得る仕事」以外を選択した 18～64 歳の方

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 1. 仕事をしたい | 2. 仕事はしたくない、できない |
|-----------|------------------|

今後収入を得る仕事をしたいかについては、全体でみると「仕事はしたくない、できない」(47.4%)の割合が「仕事をしたい」(40.8%)よりやや高くなっています。「仕事をしたい」と回答した割合は、身体障害(28.6%)、知的障害(40.5%)、精神障害(42.9%)となっています。

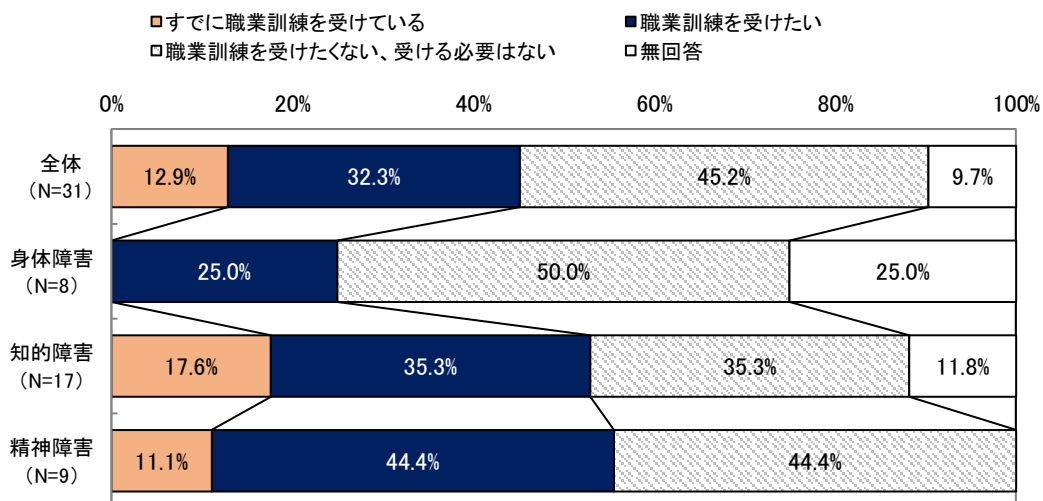


問 34 あなたは、収入を得る仕事を得るために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(1つに○)

※問 31 で「収入を得る仕事」以外を選択した 18～64 歳の方で問 33 で「仕事をしたい」方

- |                         |              |
|-------------------------|--------------|
| 1. すでに職業訓練を受けている        | 2. 職業訓練を受けたい |
| 3. 職業訓練を受けたくない、受ける必要はない |              |

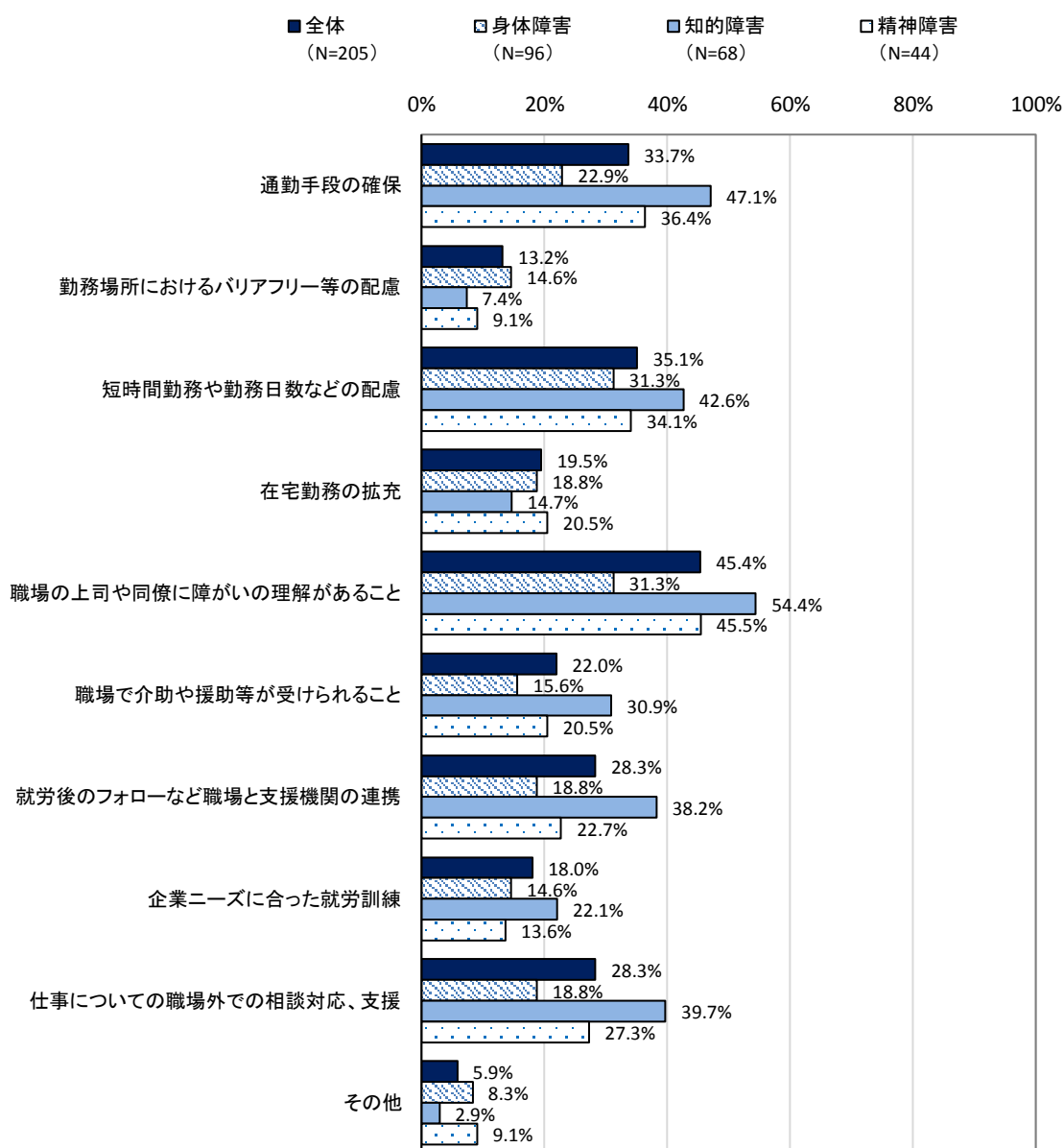
職業訓練については、全体でみると「職業訓練を受けたい」(32.3%)と約 3 割の方が望んでいます。障害別にみると身体障害(25.0%)、知的障害(35.3%)、精神障害(44.4%)となっています。



問 35 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 通勤手段の確保              | 2. 勤務場所におけるバリアフリー等の配慮  |
| 3. 短時間勤務や勤務日数等の配慮       | 4. 在宅勤務の拡充             |
| 5. 職場の上司や同僚に障がいの理解があること |                        |
| 6. 職場で介助や援助等が受けられること    |                        |
| 7. 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携 |                        |
| 8. 企業ニーズに合った就労訓練        | 9. 仕事についての職場外での相談対応、支援 |
| 10. その他 ( )             |                        |

障がい者の就労支援については、知的障害(54.4%)・精神障害(45.5%)は「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」の割合が最も高く、身体障害は、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」(31.3%)と「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(31.3%)の割合が最も高くなっています。

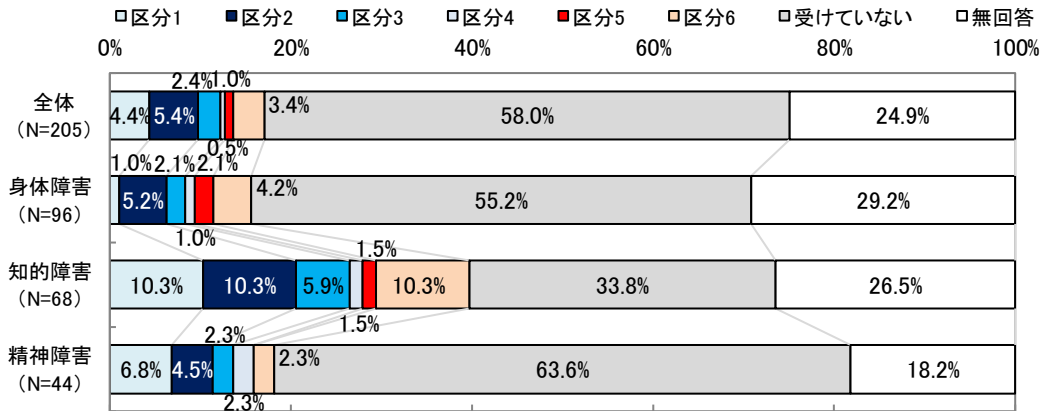


6 障がい福祉サービスなどの利用について

問 36 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(1つに○)

1. 区分1 2. 区分2 3. 区分3 4. 区分4 5. 区分5 6. 区分6 7. 受けていない

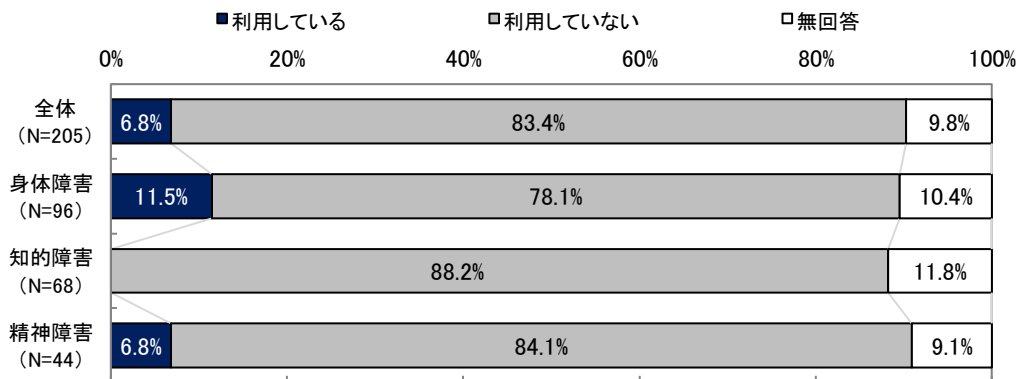
障害支援区分の認定について、身体障害(55.2%)・知的障害(33.8%)・精神障害(63.6%)すべてにおいて「受けていない」の割合が最も高くなっています。障がい別で最も高い割合の区分をみると、身体障害(5.2%)は「区分2」、知的障害(10.3%)は「区分1」、「区分2」、「区分6」、精神障害(6.8%)は「区分1」となっています。



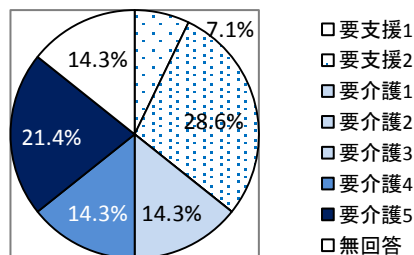
問 37 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(1つに○)

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1. 利用している<br>(あなたの介護度を○で囲んでください) | 1. 要支援1 2. 要支援2 3. 要介護1 4. 要介護2<br>5. 要介護3 6. 要介護4 7. 要介護5 |
| 2. 利用していない                       |  |

介護保険によるサービスの利用について、身体障害(11.5%)精神障害(6.8%)が「利用している」と回答しています。知的障害は利用者がいないことが分かります。



<「利用している」と回答した要支援・要介護度の割合>

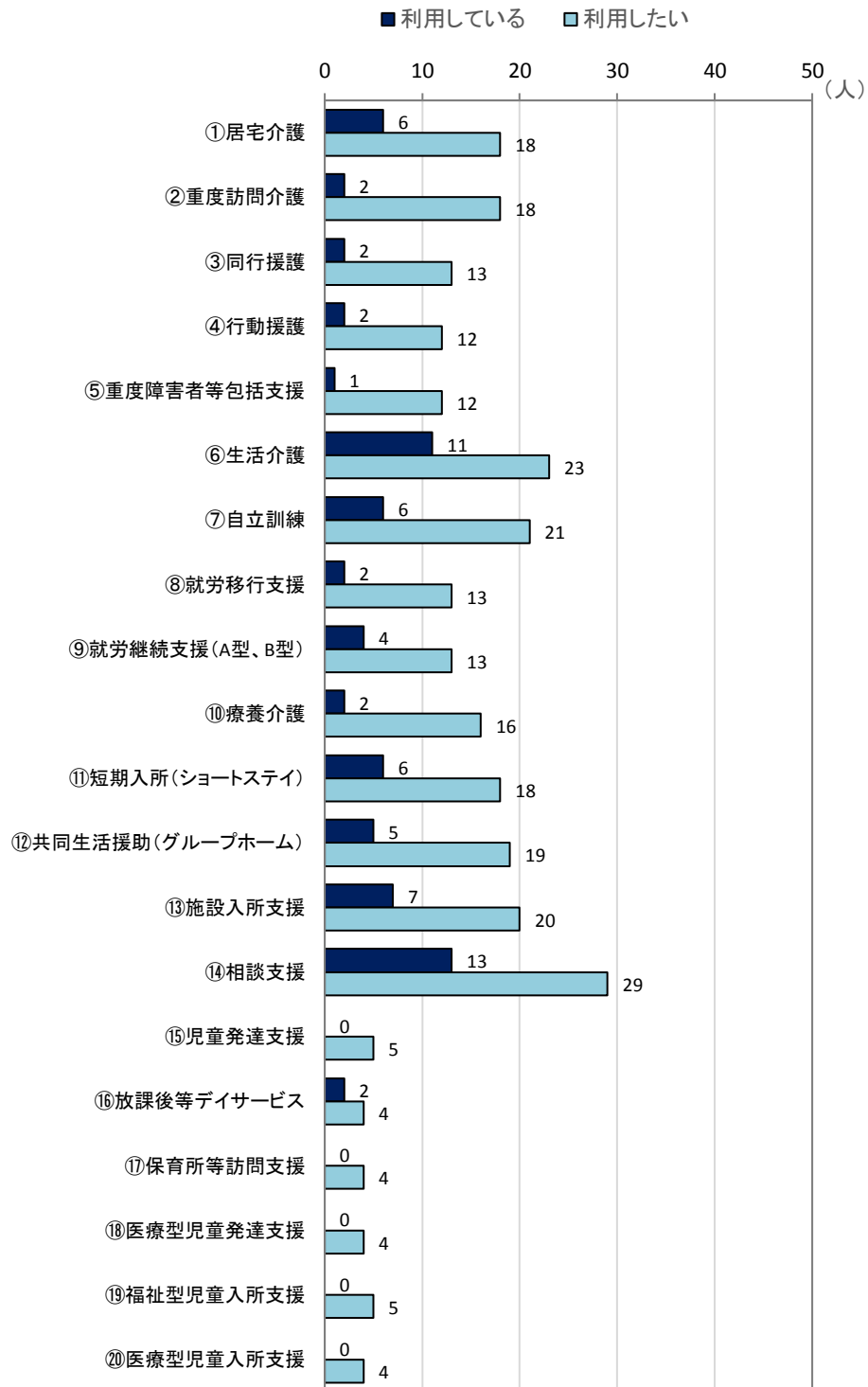


N=14

問 38 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。

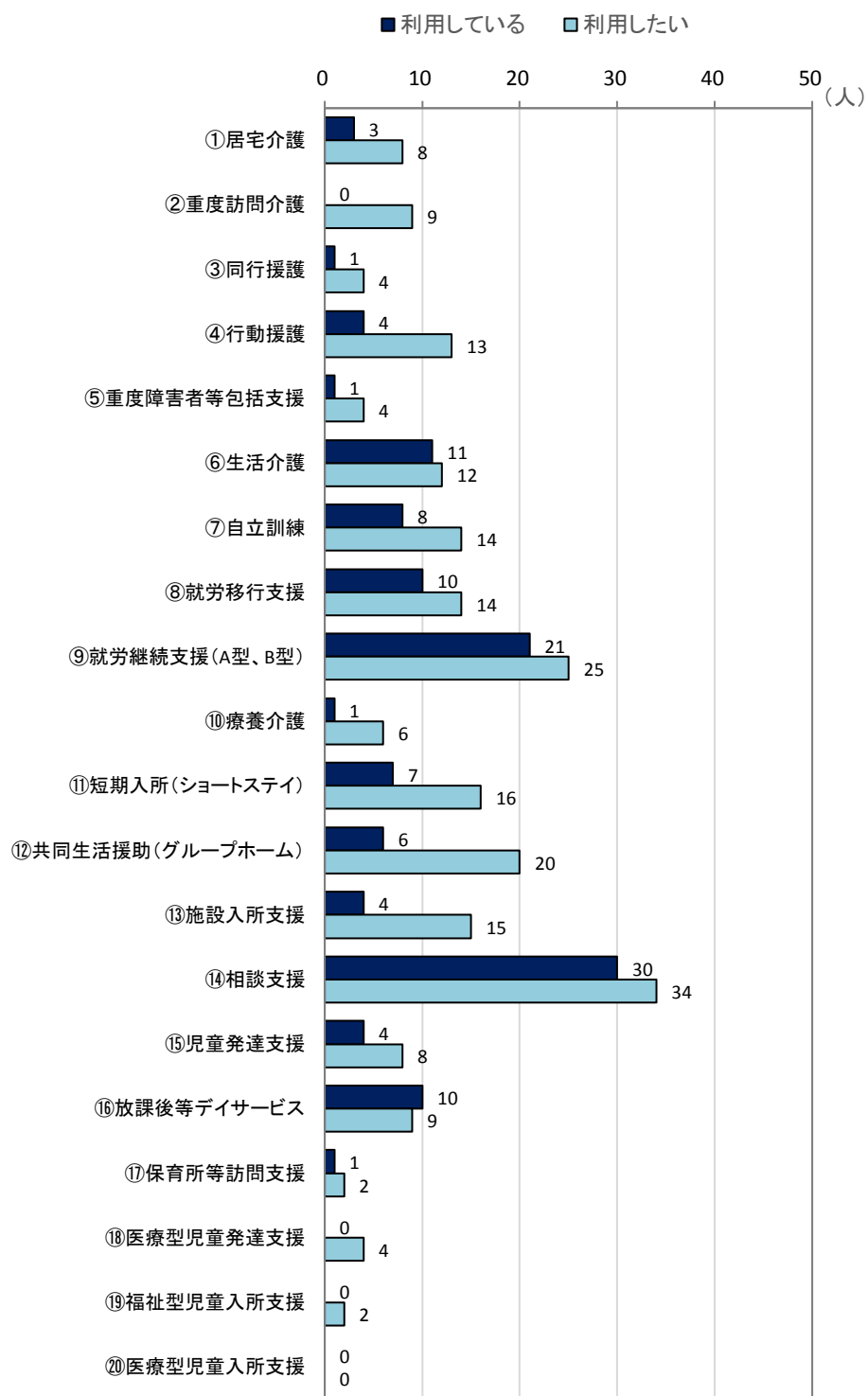
各種サービスの現在の利用について、身体障害(13 人、13.5%)・知的障害(30 人、44.1%)・精神障害(10 人、22.7%)すべてにおいて「⑭相談支援」が最も多く、今後の利用についても、身体障害(29 人、30.2%)・知的障害(34 人、50.0%)・精神障害(21 人、47.7%)すべてにおいて「⑭相談支援」が最も多くなっています。

(身体障害)

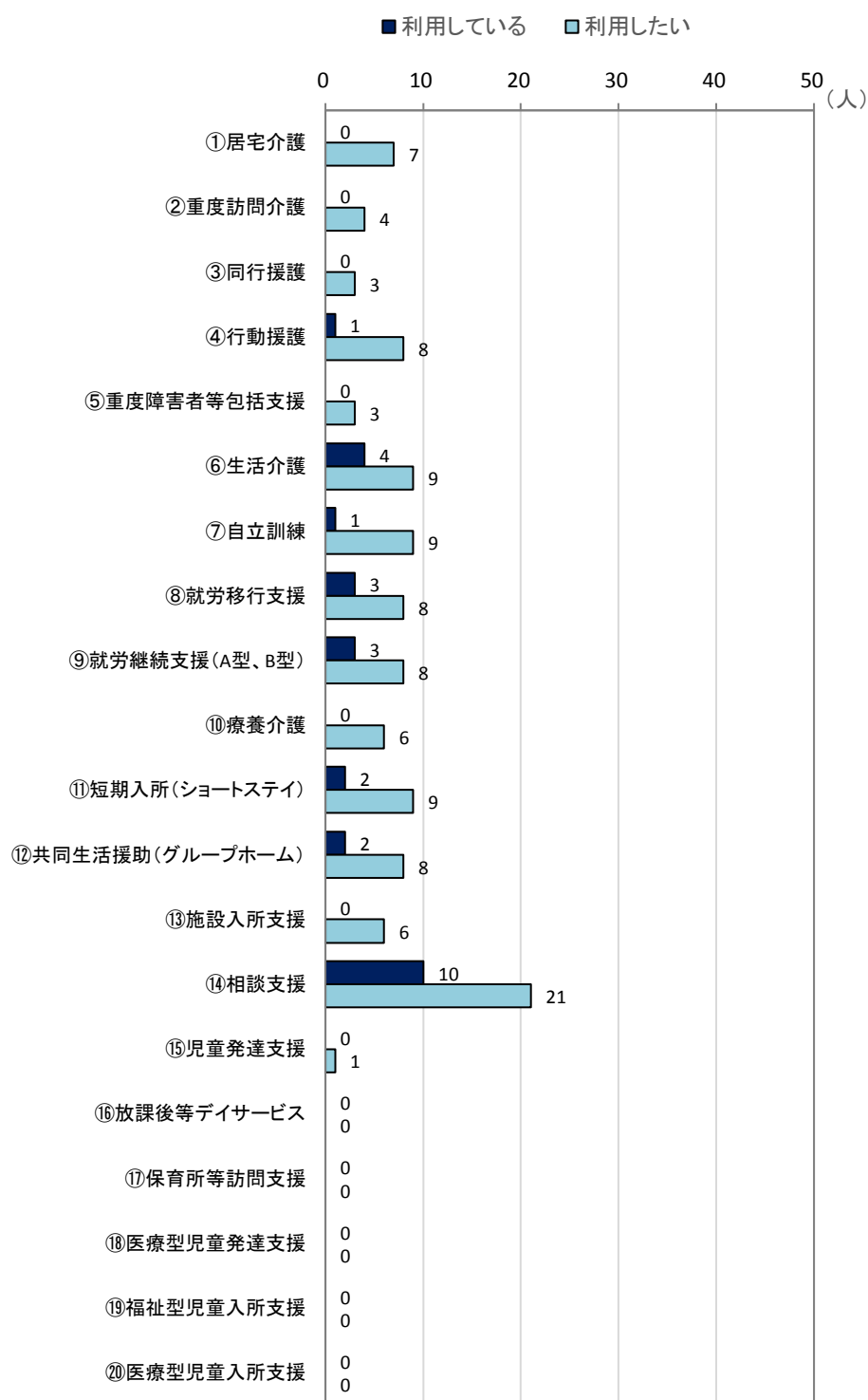




(知的障害)

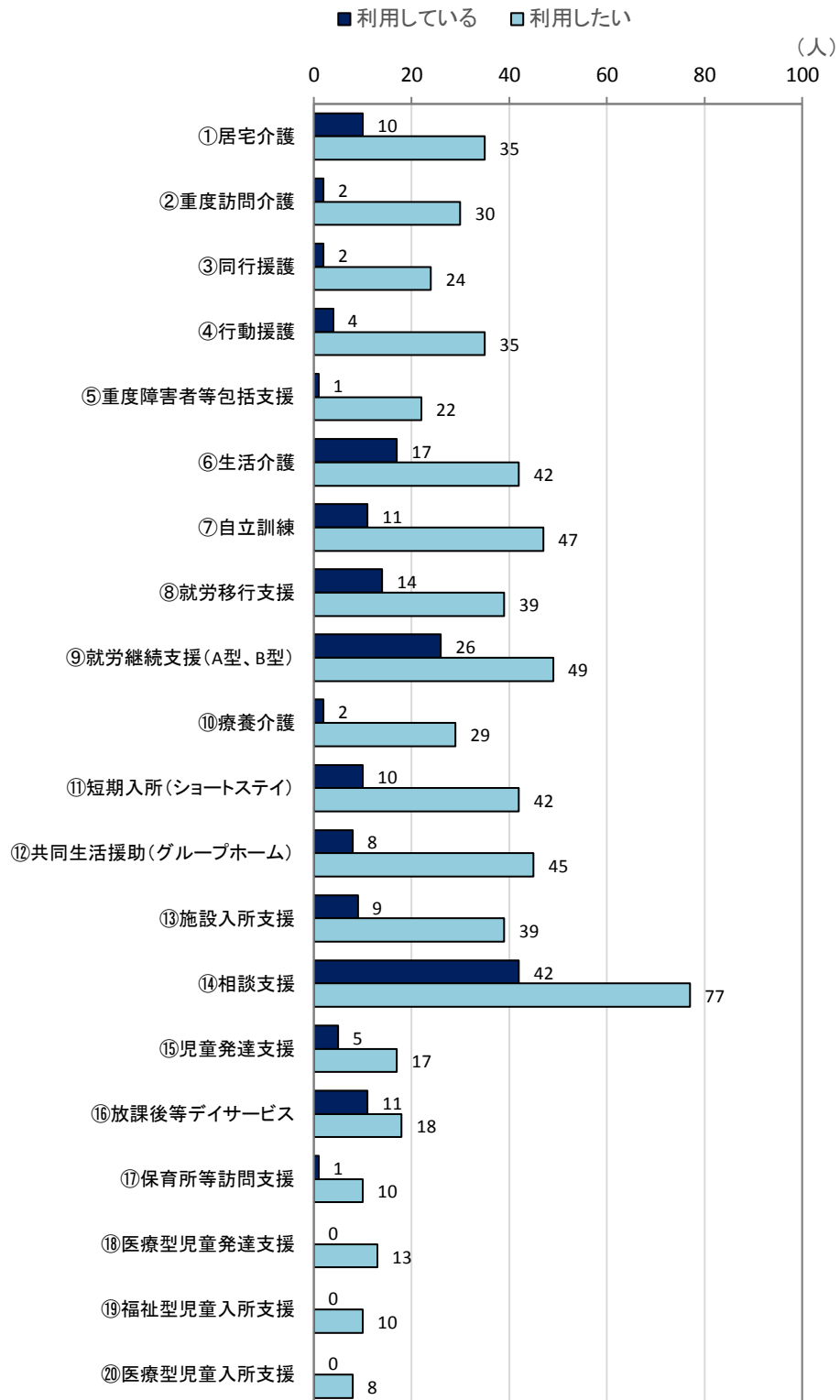


(精神障害)



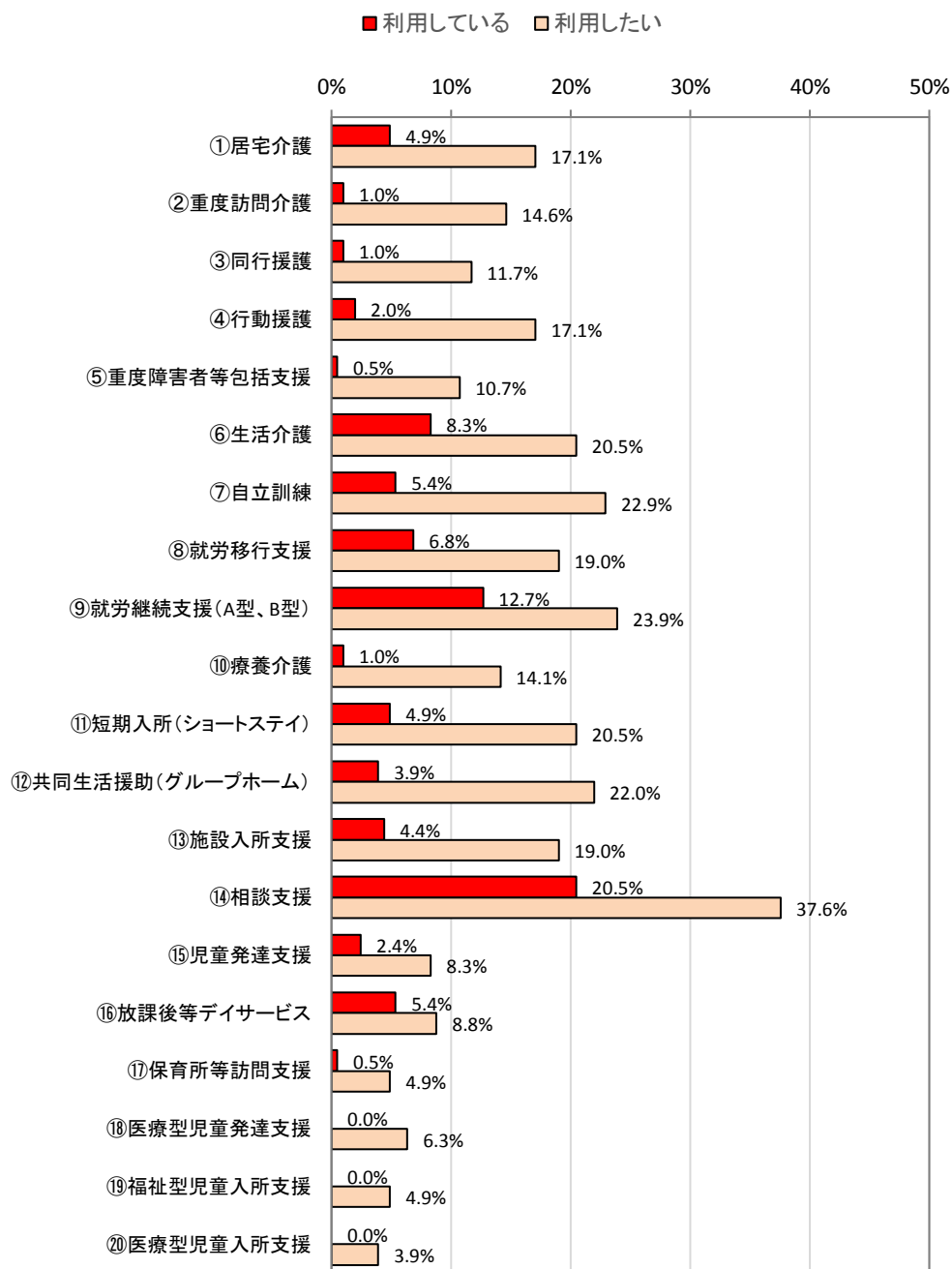
(全体)

※「利用している」「利用したい」人数



(全体)

※「利用している」「利用したい」割合



問 39 福祉サービス等を現在利用していない方におたずねします。利用していないのは、どのような理由ですか。ご自由に記入してください。

(主なご意見)

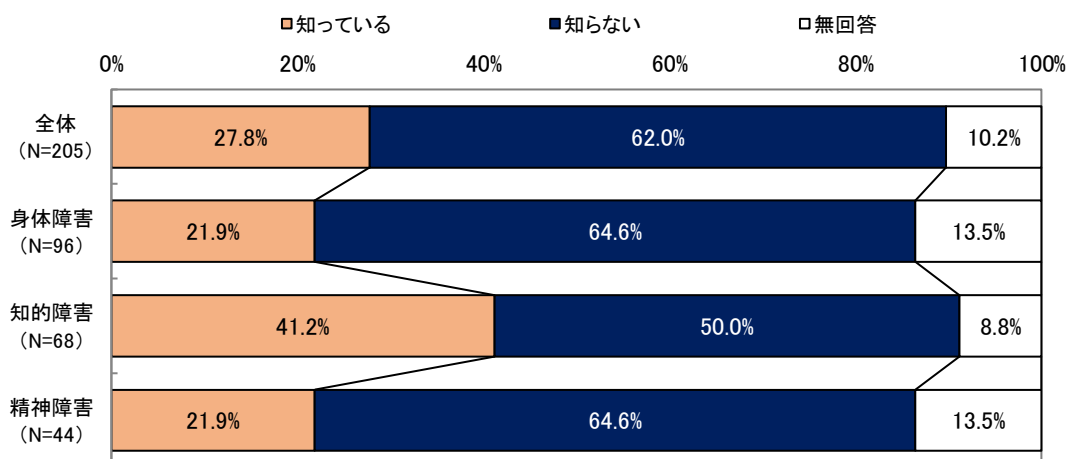
その必要性がないため	50人
福祉サービスを知らないから	4人
自分に合う福祉サービスがないため(聴覚障害、痛み)	2人

## 7 情報の入手先や相談相手について

問 40 あなたは、「高鍋町障がい者(児)等基幹相談支援センター」を知っていますか。(1つに○)

1. 知っている                      2. 知らない

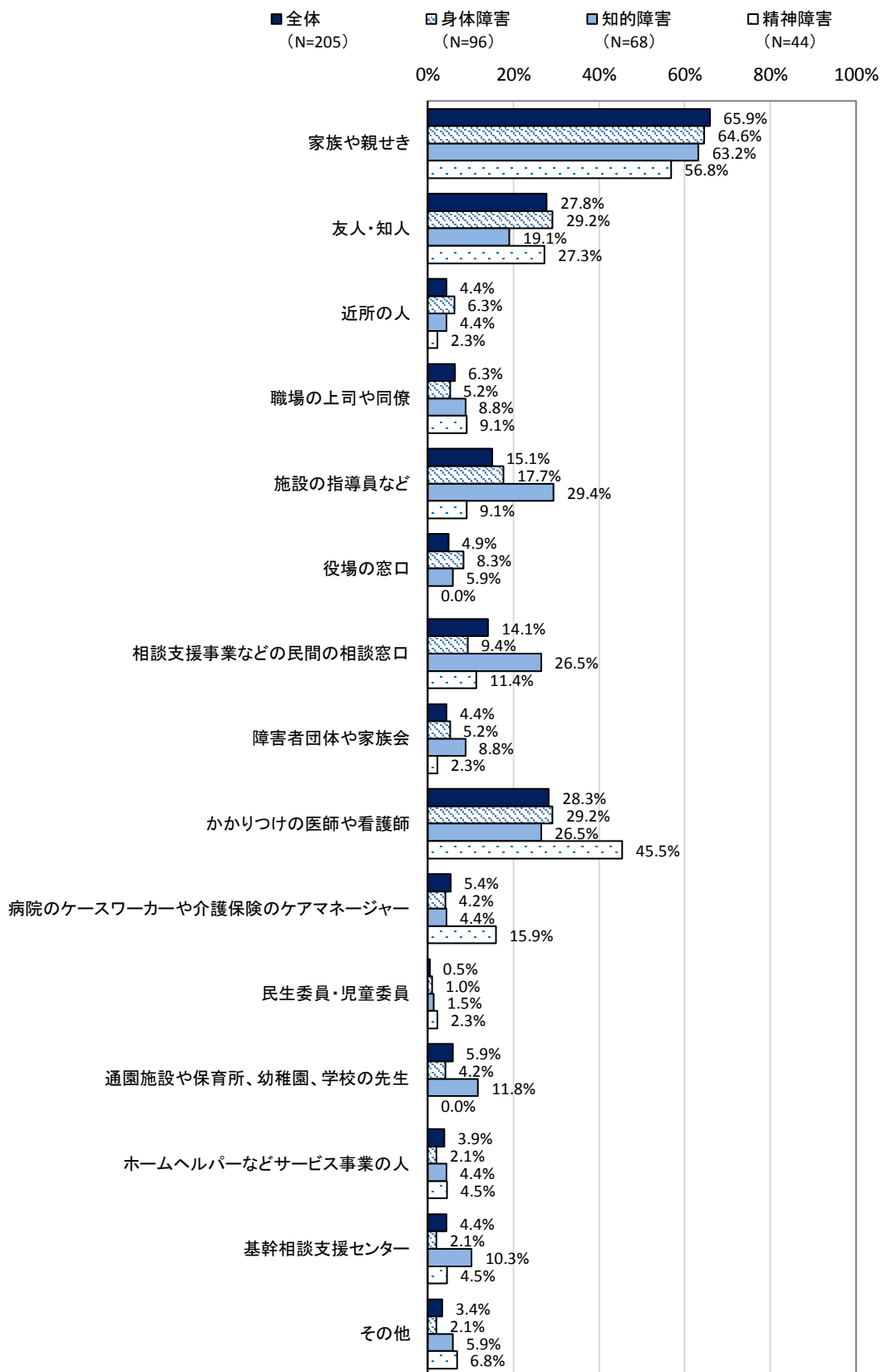
「高鍋町障がい者(児)等基幹相談支援センター」を知っているかについては、身体障害(64.6%)・知的障害(50.0%)・精神障害(64.6%)すべてにおいて「知らない」の割合が非常に高くなっています。認知度を上げる必要があると思われます。



問 41 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                              |                        |          |
|------------------------------|------------------------|----------|
| 1. 家族や親せき                    | 2. 友人・知人               | 3. 近所の人  |
| 4. 職場の上司や同僚                  | 5. 施設の指導員など            | 6. 役場の窓口 |
| 7. 相談支援事業所などの民間の相談窓口         | 8. 障害者団体や家族会           |          |
| 9. かかりつけの医師や看護師              |                        |          |
| 10. 病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー |                        |          |
| 11. 民生委員・児童委員                | 12. 通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生 |          |
| 13. ホームヘルパーなどサービス事業所の人       |                        |          |
| 14. 基幹相談支援センター               | 15. その他 ( )            |          |

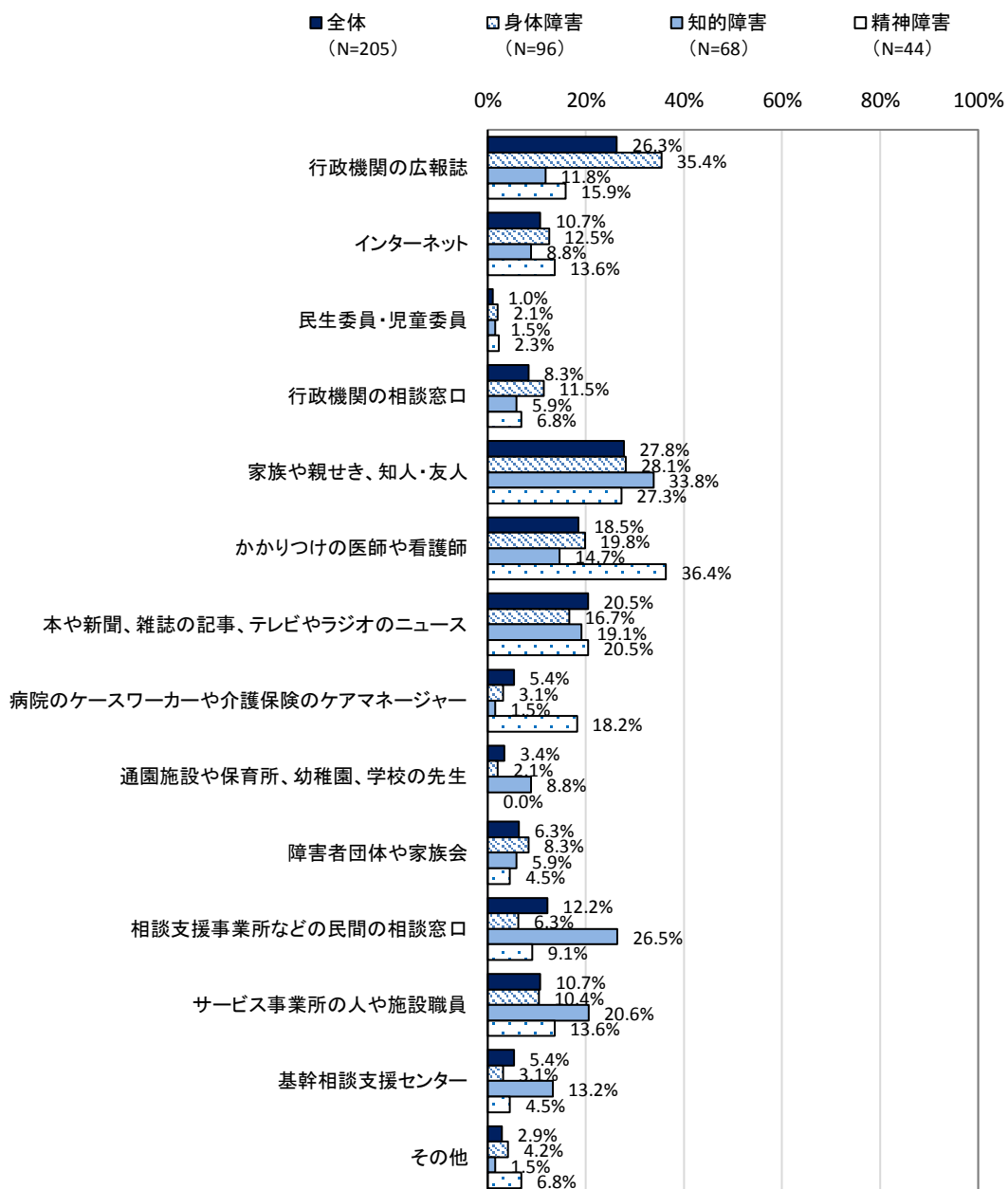
悩みを相談する相手については、身体障害(64.6%)・知的障害(63.2%)・精神障害(56.8%)すべてにおいて「家族や親せき」の割合が最も高くなっています。次いで割合が高いのは、身体障害では、「友人・知人」(29.2%)と「かかりつけの医師や看護師」(29.2%)、知的障害は、「施設の指導員など」(29.4%)、精神障害(45.5%)は、「かかりつけの医師や看護師」となっています。



問 42 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

- |                             |                            |              |
|-----------------------------|----------------------------|--------------|
| 1. 行政機関の広報紙                 | 2. インターネット                 | 3. 民生委員・児童委員 |
| 4. 行政機関の相談窓口                | 5. 家族や親せき、友人・知人            |              |
| 6. かかりつけの医師や看護師             | 7. 本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース |              |
| 8. 病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー |                            |              |
| 9. 通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生       | 10. 障害団体や家族会(団体の機関誌など)     |              |
| 11. 相談支援事業所などの民間の相談窓口       | 12. サービス事業所の人や施設職員         |              |
| 13. 基幹相談支援センター              | 14. その他( )                 |              |

障害のことや福祉サービスなどに関する情報を知ることについては、身体障害(35.4%)は、「行政機関の広報紙」、知的障害(33.8%)は、「家族や親せき、友人・知人」、精神障害(36.4%)は「かかりつけの医師や看護師」の割合が最も高くなっています。

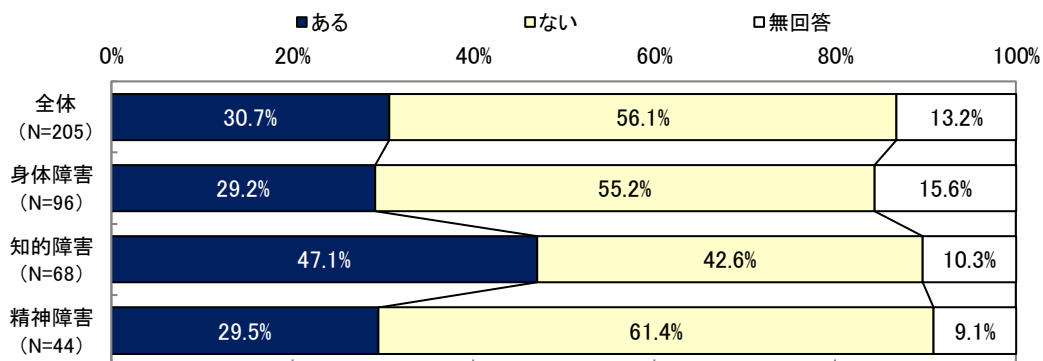


## 8 障がいのある人への理解について

問 43 あなたは日常生活や地域で障がいがあるために差別やいやな思いをしたことはありますか。  
(1つに○)

1. ある	2. ない
-------	-------

日常生活や地域で障がいがあるためにいやな思いをしたことについては、身体障害(29.2%)・知的障害(47.1%)・精神障害(29.5%)が「ある」と回答しています。

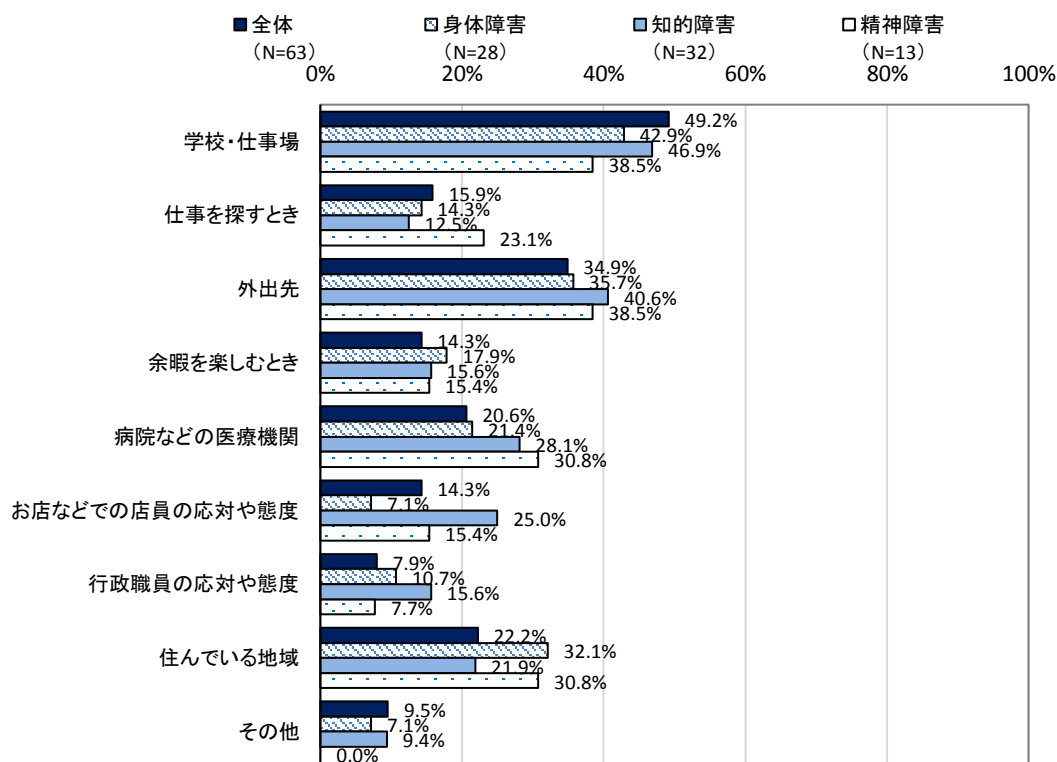


問 44 それはどのような時や場所でしたか。(あてはまるものすべてに○)

※「問 43」であると答えた方対象

1. 学校・仕事場	2. 仕事を探すとき	3. 外出先	4. 余暇を楽しむとき
5. 病院などの医療機関	6. お店などでの店員の対応や態度		
7. 行政職員の対応や態度	8. 住んでいる地域	9. その他 (具体的に: )	

どのようなことについていやな思いをしたかについては、身体障害(42.9%)・知的障害(46.9%)は、「学校・仕事場」の割合が最も高く、精神障害は、「学校・仕事場」(38.5%)と「外出先」(38.5%)の割合が同率で最も高くなっています。

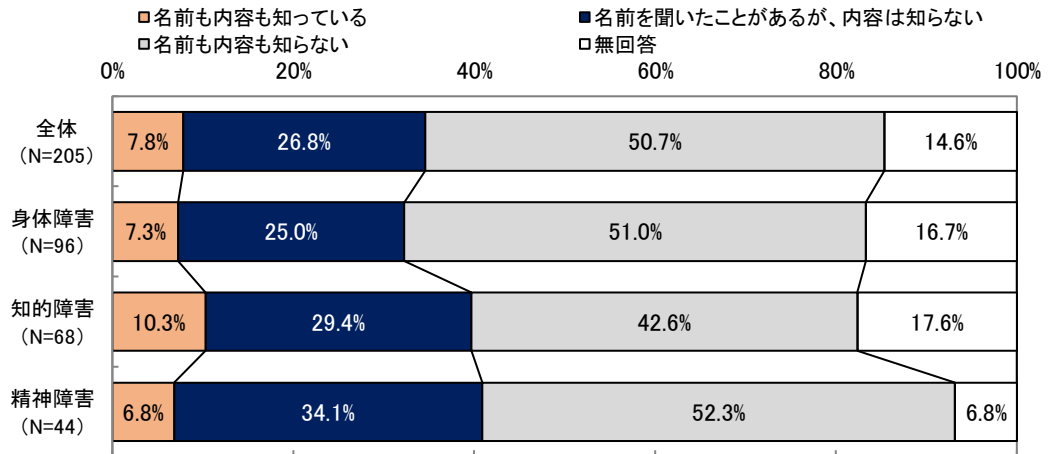




問 45 障害者差別解消法についてご存じですか。(1つに○)

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 1. 名前も内容も知っている | 2. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない |
| 3. 名前も内容も知らない  |                         |

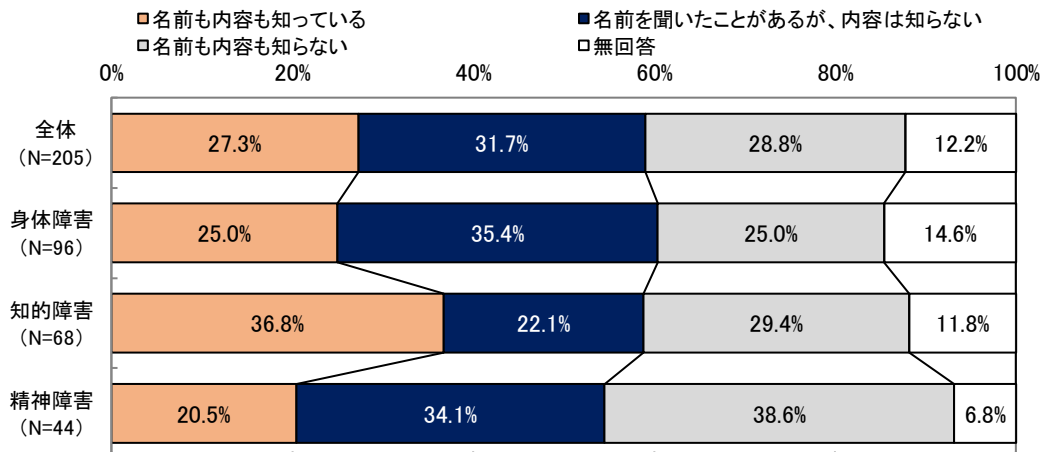
障害者差別解消法の認知度は、身体障害(51.0%)・知的障害(42.6%)・精神障害(52.3%)すべてにおいて、「名前も内容も知らない」の割合が最も高くなっています。



問 46 成年後見制度についてご存じですか。(1つに○)

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 1. 名前も内容も知っている | 2. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない |
| 3. 名前も内容も知らない  |                         |

成年後見制度の認知度は、身体障害(35.4%)・精神障害(34.1%)は「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が最も高くなっていますが、知的障害(36.8%)は「名前も内容も知っている」の割合が最も高くなっています。



問 47 あなたは、障がいのある人の理解を深めたり、差別や偏見をなくすためには、何が必要だと思いますか。ご意見、ご要望などありましたら、ご自由に記入してください。

出されたご意見を大きく分けると「障がい者の周囲の人々の教育や理解」「障がいに対する認知度を上げること」「思いやりの心を持つ」「交流」「まちづくり」になります。主な意見は以下の通りです。

「障がい者の周囲の人々の教育や理解」

役場の職員でありながら、差別や偏見に全く無理解な人がほとんどと実感している。全職員に年1回の研修を義務付けるべきだ。
障がいの理解を深める教育者ですら障がいのことを知らなすぎる。行政職員ですら情報をもっていない。相談しても相談にのってもらえない。
義務教育期間の間にそういったものに対する授業が必要だと思う。特に発達障害や精神障害に対しての対処は若いうちに教育が必要だと思う。
まわりの人が自分の障害を理解してくれること。

「障がいに対する認知度を上げること」

広く一般に認知して頂くこと。マスコミ等メディアを利用し、障がいの内容をわかり易く広めていくと良いと思います。
病気について SNS などで提示。

「思いやりの心を持つ」

誰にも欠点はある。悪口を言えばそれが自分に、はね返ってくる。思いやりの心で笑顔をつくる。
障害の内容と本人の状態をよく理解し、皆と同じ人間なので普通に接して助けが必要な時は手を出してあげる。自然な態度が一番ありがたいと思います。

「交流」

家族、近所、行政区と会える機会をふやし、余暇を楽しむ。
障がい者と健常者と分けている限り差別、偏見はなくならないと思います。しかし、両者の交流活動を子供の時から沢山する事で理解し合えると思います。障がい者が地域に溶けこめる環境作りをお願いします。
高鍋町にある障がいの施設が地域の方にオープンな交流を持つ機会が増えたり、入所、グループホームなど施設が増え、よい形で接する機会が増えるといいのではないのでしょうか。
一方的なセミナー等ではなく何か同じ目的で行動する場面、環境の設定(防災訓練もその一つでバス移動等に障害者児も対象としてほしい)
日常的に、地域ぐるみで障がいのある方とそうでない方が交流を深めること。イベントや家族の集い、学校や集会を使って良いと思う。

「まちづくり」

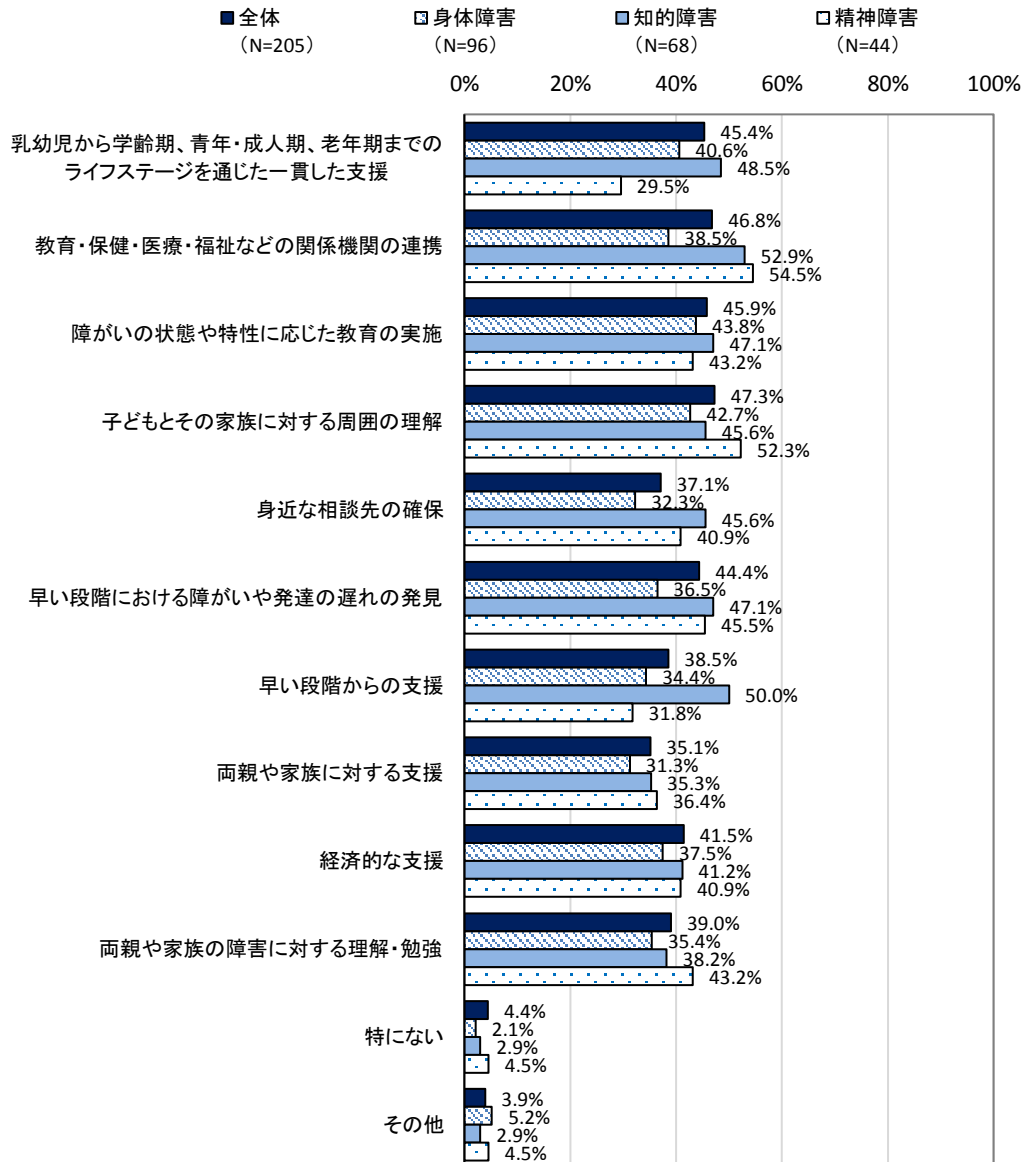
障がいのある人も地域住民のひとりとして、他の皆と同じように、あたりまえに生活を送ることが必要だと思います。自宅で暮らせる、学校に行ける、外出できる、というような生活をできる地域であると、良い。
健常者の方に、安定した仕事と収入がないと、心のゆとりもうまれないので、まずは、ゆとりのある街づくりからだと思います。

9 教育・療育について

問 48 障がいのある子どもについて、あなたはどのようなことが必要であると思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |  |                  |
|--|------------------|
| 1. 乳幼児から学齢期、青年・成人期、老年期までのライフステージを通じた一貫した支援 |                  |
| 2. 教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携                   |                  |
| 3. 障がいの状態や特性に応じた教育の実施                      |                  |
| 4. 子どもとその家族に対する周囲の理解                       | 5. 身近な相談先の確保     |
| 6. 早い段階における障がいや発達の遅れの発見                    | 7. 早い段階からの支援（療育） |
| 8. 両親や家族に対する支援                             | 9. 経済的な支援        |
| 10. 両親や家族の障害に対する理解・勉強                      | 11. 特にない         |
| 12. その他（具体的に： ）                            |                  |

障がいのある子どもについて必要なことは、身体障害(43.8%)は「障がいの状態や特性に応じた教育の実施」の割合が最も高く、知的障害(52.9%)・精神障害(54.5%)は「教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携」の割合が最も高くなっています。



問 49 あなたが現在通っている園や学校について、不安や不満に感じていることがあれば、その内容をご記入ください。卒業している場合は、直近で通っていた園や学校についてもご記入ください。

主な意見は以下の通りです。

<保育所、幼稚園、認定こども園>

保育士に専門的知識がない
--------------

<小学校、中学校(通常学級)>

いじめがあった
---------

送り迎えした方がいいか心配。
----------------

コミュニケーションがあまりできていなかった
-----------------------

授業が理解できなかった。(聴覚障害に対する支援がなかったため。)※高校でも同意見有り
--

<小学校、中学校(特別支援学級)>

先生方の障がいの特性などの理解、認知の不足
-----------------------

小学校と中学校の受け入れ体制の違い、支援の違い
-------------------------

いじわるな言葉を言われる
--------------

勉強のスピードがほぼ同じなので、子どもに応じたスピードだと助かる
----------------------------------

子どもだけでは、周りに迷惑かけるかも。※高校、特別支援、専門学校・大学でも同意見有り
--

<高校>

いじめがあった
---------

<特別支援学校>

送迎があればいいと思った/学校のバスがほしい
------------------------

学校のまわりに民家、公園等が少ない
-------------------

津波対策
------

教員の人数が少ない
-----------

<専門学校・大学>

ノートテイクを自らボランティアで集めた。前もってそういう配慮があったから良かった。
---

セルフの食堂が苦手だった。
---------------

学園のバリアフリー化が必要
---------------

問 50 教育・療育に関することについてのご意見、ご要望などありましたら、ご自由に記入してください。

主な意見は以下の通りです。

インクルーシブ教育と言われているが実際課題が多過ぎ進まない。障害があってもなくても住む地域の小学校に通いたい。教育現場で大人も子供も成長し共に助け合える、豊かな町へと変わっていかせたいと望んでいます。地域交流が年 2 回しかなく学校の構造上車イスでの難しさが増してきています。
--

個人差があると思うのでしっかりカウンセリングできる場所やにげ道を作ってあげる事や親にも定期的にカウンセリングやモニタリングが必要ではないのかなと思いました。
--

先生方によって、障がいへの知識だったり、認知度に差があります。それは支援クラス担当の先生方でもそう感じます。大切なのは、障がいに対する理解だと思います。もっと勉強してください。
--

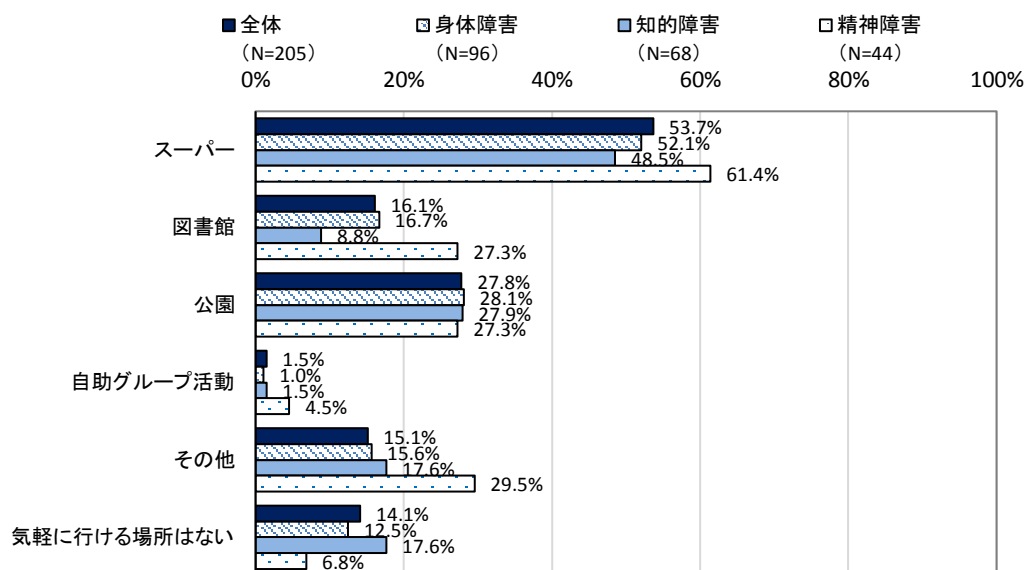
終日利用できる療育施設ができるといいです。
-----------------------

10 高鍋町の障がいのある人への施策について

問 51 あなたが、自宅や仕事場(福祉事業所を含む)、学校など以外で気軽に行ける場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

- |           |                |       |                   |
|-----------|----------------|-------|-------------------|
| 1. スーパー   | 2. 図書館         | 3. 公園 | 4. 自助グループ活動(ピア活動) |
| 5. その他( ) | 6. 気軽に行ける場所はない |       |                   |

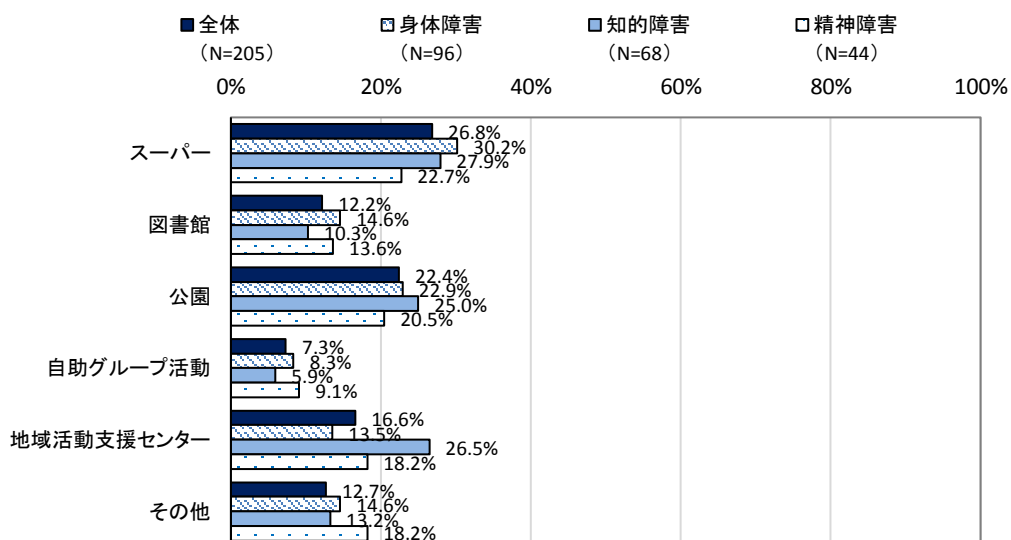
自宅や仕事場、学校など以外で気軽に行ける場所は、身体障害(52.1%)・知的障害(48.5%)・精神障害(61.4%)すべてにおいて、「スーパー」の割合が最も高くなっています。その一方で、「気軽に行ける場所はない」と回答している割合は、身体障害(12.5%)・知的障害(17.6%)・精神障害(6.8%)で、気軽に行ける場所がないと回答されています。



問 52 あなたは、どの様な場所であれば気軽に来ると考えますか。(あてはまるものすべてに○)

- |               |           |       |                   |
|---------------|-----------|-------|-------------------|
| 1. スーパー       | 2. 図書館    | 3. 公園 | 4. 自助グループ活動(ピア活動) |
| 5. 地域活動支援センター | 6. その他( ) |       |                   |

気軽に来る場所は、身体障害(30.2%)・知的障害(27.9%)・精神障害(22.7%)全てにおいて、「スーパー」が最も高くなっています。



問 53 高鍋町の障がいのある人の施策に対するご意見、ご要望などありましたら、ご自由に記入してください。

出されたご意見を大きく分けると「情報に対するご意見・要望」「施設・場の提供のご意見・要望」「対応職員に対するご意見・要望」「サービス向上へのご意見・要望」「公共交通機関に対するご意見・要望」「バリアフリー等環境に対するご意見・要望」「偏見に対するご意見・要望」「仕事に対するご意見・ご要望」「アンケートに関すること」になります。

また、上記に当てはまらないご意見・ご要望は「その他様々な不満」と「その他ご意見・要望」としてまとめました。

主な意見・ご要望は以下の通りです。

「情報に対するご意見・要望」

行政機関で障がい者を把握されていると思いますが、障害者等級別にそれぞれの福祉サービスの情報を知らせていただければ幸いです。
機能訓練を個別にして下さるサービスがあるならば、年を取りうごけなくなる前に早急に始めたい。週報で教えて下さい。すぐにでも始めたいです。よろしくお願いします。
手帳を使える制度をもっと広めて欲しい。最近まで知らないことがあって申請してなかったの。
高鍋町に住んで7年目ですが、この7年で住みやすく、福祉サービスも充実してきたと感じています。現在小学5年生ですが卒業し地域、自宅での生活を考えるとまだまだ不安はあります。この先も高鍋町で重度の障害を持つ子供と生きていきたいと願っています。子供を育てるには経済的負担も大きいです。親が体調不良の時に、一時的でも支援援助してもらえる方法、サービスがあれば知りたい。
外見ではわからない内部障害者の周知等。
春に手帳をもらいましたが、何もありません。(精神3級とはいえ、それをもらうと何があるのか、何も説明されなかったの、どうかと思った。)
障害者の施設とか、施策とか、病院とか全体が分るようなパンフなど作っていただくといいなと思っています(高鍋だけでなくこの辺一帯の)

「施設・場の提供のご意見・要望」

高鍋町は相談するところは充実しているかもしれませんが、実際に利用する児童等デイサービスや卒業後の大人の施設が少ないと思います。高鍋町在住なのに日中一時が利用できないという体験もあり、健康面で重度の方ばかりでなく支援がとても必要で重度の障がい児者も利用できる施設を増やしてほしい。
基幹相談支援センター等、ありますが、足を運ぶ保護者の方って少ないように思います。相談を、かた苦しく考えるのではなく、気軽に足を運べるような、気軽に、お話しができるような集いとか場を設けてみていいのか、と。特に小さなお子さんをもっているお母様はどこに行ってもいいか悩んでいる方が多いです。もっと積極的な働きかけが必要だと思います。
現在、高鍋町以外の福祉施設を利用していますが、不便さを感じます。地元高鍋町で、安心、充実した施設、支援を望みます。
ゆっくり勉強や本が読める、大きな駐車場のある図書館がほしい。(パソコンや映画も観れる)
高鍋西小の支援学校に通っていますが、校長先生、担任の先生、支援員の方々の対応、やさしさにとても助けられています。子どもたちも優しく声をかけてくれますが、学校での障がい者(支援学級の子どもたちへの理解)について勉強する機会があればいいなと(親も)思います。

気軽に集えて話も聞いてもらえるカフェがほしい。保護者もお互いの悩みを打ち明けたりできる場所。食事をする場ではなく、お茶飲み友達と集える、本当にふらっと立ち寄れる場所。そんな場が本当に必要だと思います。

#### 「対応職員へのご意見・要望」

私は高鍋町の施設に非常勤で勤務したことがあるが、職員の勤務態度を見て本当にいい加減うんざりした記憶がある。職員の心構えがなっていない。

理解してほしい反面、入り込み過ぎて来て、息苦しさをを感じる時がある。自分で必要な時は要望や、役所に出向くので、地区内の事で、できない事、(役員とかとか)パスさせてほしいと年齢が増すごとに思います。

役場内の異動で知識のある方が他部署へ行かれた時、最初から説明しないとイケない…。どの方も親切ですが…。「あの方はどこへ行ってしまったのかな～」と思うことがある。

#### 「サービス向上へのご意見・要望」

障がい者個人の対応は親切丁寧で、好感が持てる一方、これは全国的な問題だが絶対数が不足している為、必要な時に必ずしも迅速に対応してもらえない事がある。職員がまかなえないほどの人数を担当しているのでやむを得ないが。

老人介護施設(グループホームなど)のサービス介護が出来てない。職員の数が少ない。

私は、現在透析中、手続きのため何度も役場へ行かねばならない。まず奇跡でも起こらない限り完治することはない。事務手続きの簡素化を望む！

私は透析を受けているのですが、周りを見ると皆年寄りが多いのが現実です。役場に行って書類を出したり、いろいろな手続きを受けたりします。運転のできる人はいいのですが、年をとってしまい体が不自由になった方や遠くに住んでいる人は役場までタクシーと言う方もいます。できれば郵送で書類を送って下されば幸いです。

透析患者に対する交通費の補助。

#### 「公共交通機関に対するご意見・要望」

体が不自由になって通院に行く手段がなくなった場合(運転手がいらない)、交通機関の支援があるとスムーズに受診できると思います。

公共交通機関が少ない。車を運転できないので、気軽に使えるといいと思う。

通院、通所への交通手段が早急にほしい。又費用の援助。

#### 「バリアフリー等環境に対するご意見・要望」

バリアフリーの充実。2階建て以上の施設のエレベーター設置。

歩道に段差がない方がよい。

#### 「偏見に対するご意見・要望」

小さい時から障がいのない人と一緒にかかわりをもっていれば大人になっても差別がないと思います。障がいのある人とない人を一緒に保育園等で過ごさせる。小さい時保育所に入れたくて電話をすると、「手続きをしますと入れますのでどうぞ。お待ちしております。」と言われたのに、障がい児ですと言うといっぱいで入れませんと言われたことがある。

障がいがある本人が一番つらいのに周りの人の中には、まだ偏見する人がいてよけい苦しい。

#### 「仕事に対するご意見・要望」

就職先が見つからない事が困る。

どのような状況であれ、仕事(役割)があることは大切である。通う場所がある。行けばやることがある。自分が役に立てる場所になるような場所はいいかもですね。

自立支援(仕事)環境度を更に高めて欲しい。

#### 「アンケートに関すること」

このようなアンケートを実施しても、高鍋町がそれなりの行動を起こすとは考えられない。アンケートのためのアンケートで終わり。

アンケート調査を行うのは大変な作業段階があり労力をつかわれる大仕事と存じます。ありがとうございます。是非、調査結果に実りがあります様お願い致します。また、役場の方々だけでなく、障がい者を含めた改善対策の場がもたれることを望みます。

アンケートの設問が障がい者全般にわたっているため非常に答えにくいし、障がい者が福祉の事を全てわかっていないと簡単には答えられないため、読むのにも答えるのにも時間がかかり大変な作業となる。アンケートを作った方の優しさを感じられない。

アンケートだけど、やっぱり見にくい所がある為、もう少し字を大きくイラスト等いれて内容も、もう少しかみくだいて書いてあると答えやすいのかなと思いました。拒否から入るのではなく、受け入れてやってみてほしいです。アンケートだからといって軽くみられているのではないのかなと思った所がありました。

その他様々な不満とその他ご意見・要望は以下の通りです。

#### 「その他様々な不満」

障害者の区分があいまい。歩いている人が3級で、まったく歩けない人が4級おかしいのでは…。

重度障がい者で、通所施設に月～金まで通っています。(朝9:00～夕方4:00過ぎまで)この間に仕事が終わらず、大変な思いをしています。入所しかないのかなあとと思います。保育園等は朝7:00～夕6:30まで預かってもらえます。成人も、地域で生活することができないのかと思います。しかし、入所施設もいっぱい、重度で手のかかる我が子は、希望の入所施設には入れないでしょうね。

近年、障害児が多くなる一方、親が障害を否定したり、かくしたりして、子供に必要な支援が行き届いていないので、健診や就学前健診で、必ず検査を受け、結果を学校や役場に提出する様した方が良いと思う。その為に、親、学校(保育園)、医療機関、事業所が連携していく必要があると思う。まだまだ連携が難しく、特に学校は、連携してないと感じるので、担会など参加が必要だと思う。

#### 「その他ご意見・要望」

障害を持っていても、安心して楽しく生きていけるようにお願いします。

右人差し中指薬指第一関節から切った時、つくり指、つくった事があるので(労災)作ってもらいたい。

障がいのある人も、ひきこもらずに積極的に前を向いてがんばろう。

難病、内部障がい者に対する支援を、もっと充実してほしい。

近くにちょっと行けるような公園があったら…と思います。あっても草が長く伸びていて、障害者には抵抗があったりします。

B型就労者の確保もしくは、JA 児湯とモリドラの間のスペースに直売所(農産物、工芸品、加工品)販売所と、パン、クッキー、ほしいも、などの製作所を建設し、農、工、商の循環をつくりだす。